令和5年度

教育委員会の事務に関する点検及び評価報告書

令和6年8月

草加市教育委員会

目 次

■ はじめに	
1 趣旨	1
2 点検及び評価の対象	1
3 点検及び評価の方法	1
4 点検及び評価表の構成	2
5 総合評価結果一覧	4
■ 点検及び評価表	
1-1 子ども教育の連携の推進	6
1-2 自ら学ぶ「草加っ子」の育成	10
1-3 心豊かな「草加っ子」の育成	14
1-4 たくましく生きる「草加っ子」の育成	18
1-5 多様なニーズに対応した教育と支援の充実	22
1-6 「草加っ子」の学びを支える指導力の向上	26
2-1 地域とともにある学校づくりの推進	30
2-2 家庭教育への支援	34
3-1 安全安心な学校教育施設の整備・充実	36
3-2 学習環境の整備・充実	38
4-1 生涯を通じた多様な学習機会の充実	40
4-2 公民館・文化センターの整備と生涯学習環境の充実	42
4-3 文化遺産の発掘・保存・活用の計画的、継続的な取組の推進	44
4-4 読書活動を支える図書館サービスの充実	48
5-1 学校人権教育の推進	52
5-2 社会人権教育の推進	54
施策体系外事業	56
■ 資 料	
令和6年度草加市小中学校学年別児童・生徒数・学級数等一覧表	60
草加市教育委員会事務点検及び評価実施要綱	61

■ はじめに

1 趣旨

草加市教育委員会では、第三次草加市教育振興基本計画「笑顔かがやく草加教育プラン」（令和2年度～令和5年度）に基づき、基本理念として掲げる『生きる力を共に教え育てる草加の教育』を推進しております。事務の執行に当たっては、第三次草加市教育振興基本計画の実現に向け具体的な目標値を年度ごとに定め、事務の点検及び評価により、進行管理を行っています。

この報告書は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民の皆様への説明責任を果たすため、令和5年度に実施した教育委員会の事務に関する点検及び評価の結果を取りまとめたものです。

2 点検及び評価の対象

点検及び評価の対象は、第三次草加市教育振興基本計画のうち、令和5年度に取り組んだ16の施策に基づく主な取組の活動内容実績です。

3 点検及び評価の方法

点検及び評価に当たっては、施策に基づく主な取組の活動内容実績、施策の指標に係る実績値から成果を明らかにすることによって自己評価を行い、課題を明らかにするとともに、次年度以降の取組についてその内容を示し、事務改善を図ります。

点検及び評価の客観性を確保し、知見を活用するため、教育に関し学識経験を有する点検評価委員から、様々なご意見、ご助言をいただきました。

ご意見等をいただいた点検評価委員は、次のとおりです。

任期：令和5年7月1日から令和7年6月30日まで （50音順 敬称略）

氏名	所属等
藤原 国之	草加市PTA連合会副会長、松江中学校PTA会長
船戸 姿子	人権擁護委員、草加市立小中学校通学区域審議会委員、草加市いじめ問題対策連絡協議会、元西町小学校校長
安原 陽平	獨協大学法学部法律学科准教授

4 点検及び評価表の構成

① 基本構成

第三次草加市教育振興基本計画における「Ⅰ 自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成」「Ⅱ 学びを通して生きる力を育む生涯学習社会の推進」「Ⅲ 人権を尊重しあう教育の推進」の3つの基本構成です。

② 基本目標

第三次草加市教育振興基本計画における「1 目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む幼保小中を一貫した教育の推進」「2 学校・家庭・地域の連携・協働の推進」「3 教育環境の整備・充実」「4 学びの成果が発揮される生涯学習の推進」「5 人権教育の推進」の5つの基本目標です。

③ 施策

第三次草加市教育振興基本計画における16の施策です。

④ 活動内容実績

主な取組の実施状況及び実績を記載しています。

⑤ 令和5年度点検評価委員の意見等

施策ごとに点検評価委員からいただいた意見等を記載しています。

⑥ 事務事業費

施策ごとの予算額、決算額及び予算額並びに財源内訳を記載しています。

⑦ 個別事務事業名

施策を構成する事務事業名、決算額及び予算額を記載しています。

⑧ 成果指標

主に第三次草加市教育振興基本計画で設定した成果指標に対する令和5年度実績値、令和5年度における目標値及び所属評価・達成状況を記載しています。

⑨ 評価

主な取組の活動内容を踏まえ、成果と課題を記載しています。

⑩ 令和6年度以降の取組

令和5年度の評価を行う時点における令和6年度以降の取組を記載しています。

⑪ 総合評価

令和5年度の施策について、総括的に自己評価を行っています。

第三次草加市教育振興基本計画・施策体系図

基本理念	基本構成	基本目標	施策
生きる力を共に教え育てる草加の教育	自ら学び、心豊かに、 I たくましく生きる「草加っ子」の育成	1 目指す「草加っ子」 (15歳の姿)を 育む幼保小中を一貫 した教育の推進	1-1 子ども教育の連携の推進
			1-2 自ら学ぶ「草加っ子」の育成
			1-3 心豊かな「草加っ子」の育成
			1-4 たくましく生きる「草加っ子」の育成
			1-5 多様なニーズに対応した教育と支援の 充実
			1-6 「草加っ子」の学びを支える指導力の 向上
	2 学校・家庭・地域の 連携・協働の推進	2-1 地域とともにある学校づくりの推進	
		2-2 家庭教育への支援	
		3 教育環境の整備・ 充実	3-1 安全安心な学校教育施設の整備・充実
	3-2 学習環境の整備・充実		
	学びを通して生きる力 II を育む生涯学習社会の 推進	4 学びの成果が発揮 される生涯学習の 推進	4-1 生涯を通した多様な学習機会の充実
			4-2 公民館・文化センターの整備と生涯 学習環境の充実
			4-3 文化遺産の発掘・保存・活用の計画的、 継続的な取組の推進
			4-4 読書活動を支える図書館サービスの 充実
	III 人権を尊重しあう 教育の推進	5 人権教育の推進	5-1 学校人権教育の推進
5-2 社会人権教育の推進			

5 総合評価結果一覧

令和5年度総合評価		
1-1	子ども教育の連携の推進	B
1-2	自ら学ぶ「草加っ子」の育成	B
1-3	心豊かな「草加っ子」の育成	B
1-4	たくましく生きる「草加っ子」の育成	B
1-5	多様なニーズに対応した教育と支援の充実	B
1-6	「草加っ子」の学びを支える指導力の向上	B
2-1	地域とともにある学校づくりの推進	B
2-2	家庭教育への支援	A
3-1	安全安心な学校教育施設の整備・充実	B
3-2	学習環境の整備・充実	B
4-1	生涯を通じた多様な学習機会の充実	B
4-2	公民館・文化センターの整備と生涯学習環境の充実	B
4-3	文化遺産の発掘・保存・活用の計画的、継続的な取組の推進	B
4-4	読書活動を支える図書館サービスの充実	B
5-1	学校人権教育の推進	B
5-2	社会人権教育の推進	B
—	施策体系外事業	A
A…2 B…15 C…0 D…0		

総合評価基準

- A：十分に目標が達成された。
- B：相当程度目標が達成された。
- C：目標の達成がやや不十分であった。
- D：目標の達成が不十分であった。

点検及び評価表

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	1	目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む 幼保小中を一貫した教育の推進	子ども教育連携推進室	B
	施策	1-1	子ども教育の連携の推進		

目指す「草加っ子」(15歳の姿)の実現に向け、自己肯定感等の重要性を周知し、幼保小中・家庭・地域における自己肯定感等の育成を推進します。

幼保小中を一貫した教育に関する各種資料を「社会に開かれた教育課程」などの学習指導要領で示された理念や概念に沿って見直し、各園・各校での活用を推進します。

幼児期の教育において、体験的活動が充実し、幼保小の円滑な接続が図られるよう、各園の保育・教育を支援します。

乗り入れ授業等の交流・連携の支援や、研究委嘱を通して、幼保小中を一貫した教育を一層充実させます。

【自己肯定感・自己有用感の育成】

- 子ども教育の連携に関する児童生徒アンケートを電子回答による全数調査で実施しました。結果を分析して児童生徒の実態を把握し、各校を支援するための基礎資料としました。
- 児童生徒の自己肯定感・自己有用感の育成に関する先行研究を調査し、研究委嘱校を中心に各学校へ情報提供及び指導を行いました。
- 目指す「草加っ子」を育む授業づくり研修会を開催しました。実践豊富な講師が模擬授業を通して、自己肯定感を育む授業づくりの手法を紹介することで、教職員の指導力向上を図りました。

【「社会に開かれた教育課程」等を踏まえた指導資料の作成】

- 草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラムを、来年度から小学校で使用の新教科書の内容に対応するよう改訂し、各学校へ電子データで配布しました。
- 幼保小合同開催やオンデマンド型など、研修内容や開催方法を工夫しながらの教職員研修会を実施しました。

【幼児期の教育の充実】

- 幼稚園、私立認可保育園、認定こども園を対象に、補助金について説明会及び手引きの配布を行いました。全38園から交付申請があり、審査の結果、全園に補助金を交付しました。
- 市立保育園については、全19園に対して幼児教育の充実に向けて支援しました。
- 幼児教育アドバイザー(元子ども教育連携支援員)3名が各園を訪問して保育等の実態を把握し、教育・保育への助言を行いました。

【交流・連携の充実による幼保小中を一貫した教育の推進】

- 全中学校区に子ども教育連携教員を配置し、17名の県費負担教職員に対する兼務発令の事務手続きを行いました。
- 子ども教育連携訪問を実施し、乗り入れ授業や子ども教育連携教員の授業改善のため、指導・助言を行いました。
- 月例報告書等を基に、各中学校区の乗り入れ授業の実施状況を把握し、指導・助言を行いました。
- 中学校区ごとに子ども教育連絡協議会を開催し、交流・連携等に係る情報交換や協議を行いました。

活動内容実績

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	44,530,238	38,244,308	33,495,000
		一般財源	42,846,238	38,072,308	33,245,000
		特定財源	1,684,000	172,000	250,000
個別 事務 事業 名	子ども教育連携推進事業	11,448,336	7,423,139	8,623,000	
	「草加っ子」を育む子ども教育連携教員配置事業	33,081,902	30,821,169	24,872,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	(1) 幼保小中を一貫した教育を推進し、児童生徒の自己肯定感及び自己有用感を育みます。 (2) 市内各園への訪問支援を通して、幼児教育の充実を図ります。 (3) 各中学校区における乗り入れ授業を充実させ、小中学校間の円滑な接続を目指します。		(1) ①63.1% ②69.8%	(1) ①80% ②70%	
	指標名		(2) 52園	(2) 57園 (35園)	
	(1) 自己肯定感及び自己有用感が高い(子ども教育の連携に関するアンケート調査から5段階で評価して、上位2段階に当たる)児童生徒の割合 ①自己肯定感が高い児童生徒の割合 ②自己有用感が高い児童生徒の割合 (2) 訪問支援を行った幼稚園・保育園・認定こども園の園数 (3) 乗り入れ授業を通して、中学校の先生に親しみを感じた中学校1年生の割合		(3) 81.5%	(3) 85% (70%)	
	所属評価・達成状況		※()は当初目標値		
	(1) ①②ともに肯定的な回答の割合が増加しましたが、目標値には達しませんでした。引き続き、児童生徒の発達段階や実態を踏まえながら、幼保小中を一貫した教育の充実を図ります。 (2) 感染症対策を講じながら、ほぼ全園に対して訪問支援を実施し、当初目標を達成することができましたが、最終目標値には達しませんでした。 (3) 市内9中学校区で乗り入れ授業を実施しました。実施方法を検討しながら、引き続き小中学校間の円滑な接続に取り組みます。				
令和5年度点検評価委員の意見等					
<ul style="list-style-type: none"> 様々な観点から子ども教育の充実が図られている。 幼保から小学校、小学校から中学校と校種が変わるときは、児童生徒の気持ち揺れる時期であるため、乗り入れ授業はすごく良い取組である。 成果指標の実績値で81.5%もの生徒が乗り入れ授業を通して中学校の先生に親しみを感じたというのは評価に値し、実際に進学に関する不安解消につながっている。 コロナ禍前は、先生を介した乗り入れ授業だけでなく学校探検や吹奏楽の演奏会など子どもが直接、他世代と交流できる活動もあったと思う。PTAとも協力し、地域一体となって、授業の他にも交流活動を徐々に復活させていくことを検討してほしい。 直に子どもたち同士や保護者同士が交わることが非常に重要であり、そのことによって交流も深まり、地域で子どもを育てることにもつながると思う。 今後は、今以上の成果がでるよう、乗り入れ授業の回数、時間を増やすなど、小学校と中学校の交流する場を増やすことを検討してほしい。 子ども教育連携教員の小中学校のパイプ役としての活動は、引き続き推進していくことで、幼保小中の連携が進んでいくと思う。 引き続き教員の働き方改革の観点を意識しつつ、成果を維持できるよう取り組んでほしい。 					

【自己肯定感・自己有用感の育成】〔評価A〕

○児童生徒アンケートについて、タブレット端末を活用して全数調査を行い、自己肯定感・自己有用感の実態を詳細に把握・分析できました。

○自己肯定感・自己有用感の育成に関する先行研究を調査し、それに基づいて研究委嘱校へ情報提供できました。

△各学校で調査結果が効果的に教育活動に生かされるよう、調査結果の活用等を幼保小中及び家庭・地域へ周知していく必要があります。

【「社会に開かれた教育課程」等を踏まえた指導資料の作成】〔評価B〕

○各種教職員研修会を開催し、実施後アンケートでは100%の参加者から肯定的な回答を得られました。

○市内のふるさと草加学習の実施状況等を把握し、好事例を各小中学校へ周知することができました。

△ふるさと草加学習を計画的に探究的な学習として実施できるよう、年間指導計画への位置付けについて引き続き指導していく必要があります。

【幼児期の教育の充実】〔評価B〕

○市内の幼稚園、私立認可保育園、認定こども園全38園へ補助金を交付し、市立保育園全19園へ活動の支援を行うなど、幼児教育の充実を図ることができました。

○幼児教育アドバイザー(元子ども教育連携支援員)による訪問支援を、幼稚園・認定子ども園15園、私立認可保育園19園、市立保育園18園で延べ77回行い、教育・保育の質の向上を図ることができました。

△訪問支援等で補助金の効果的な活用方法等の事例を集め、各園に周知していく必要があります。

△訪問支援については、訪問中に把握した各園の状況や訪問支援への要望を踏まえて、より効果的な支援を実施できるよう、保育課とも連携を図りながら訪問支援の内容等を充実させていく必要があります。

【交流・連携の充実による幼保小中を一貫した教育の推進】〔評価B〕

○関係機関との連携を密にすることで、実態に沿った子ども教育連携教員を配置し、兼務発令の事務手続きを円滑に行うことができました。

○子ども教育連携訪問を実施し、乗り入れ授業の実態を把握し、指導・助言を行うことで、教員の資質向上を図ることができました。

○月例報告書等を基に、各中学校区における乗り入れ授業の実施状況について指導・助言を行うことで、年間を通じて乗り入れ授業の実施を支援することができました。

○中学校区子ども教育連絡協議会では、目指す子ども像の共有や交流・連携の取組の充実を図ることができました。

△子ども教育連携教員の指導力の向上を図るため、効果的に指導・助言を行う必要があります。

△中学校区連絡協議会は、目指す子ども像実現のための交流・連携や15年間を通じたカリキュラム編成の充実について、各中学校区を支援していく必要があります。

【自己肯定感・自己有用感の育成】

- ・第四次草加市教育振興基本計画に合わせ、アンケート内容の観点として自己肯定感・自己有用感に他者理解を加えて実施し、児童生徒の実態を把握し、具体的取組を決める基礎資料とします。
- ・保護者向けリーフレットの内容を改定し、自己肯定感・自己有用感・他者理解を育成する重要性を家庭・地域へ発信します。
- ・自己肯定感・自己有用感・他者理解の育成に関する先行研究や実践事例を調査し、指導課と連携しながら各学校へ情報提供及び指導します。

【「社会に開かれた教育課程」等を踏まえた指導資料の作成】

- ・草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラム等の内容について教職員の理解を深め、効果的な活用につなげるため、改善を図りながら研修会を実施します。

【幼児期の教育の充実】

- ・令和5年度から改正された幼児教育充実事業補助金の対象となる活動区分について一層周知し、各園が効果的に活用できるよう支援します。
- ・各園における教育・保育が一層充実するよう各園を訪問し、実態に即した支援を行います。

【交流・連携の充実による幼保小中を一貫した教育の推進】

- ・県費負担教職員が中心となる効果的な乗り入れ授業の実施方法について周知し、年間を通じた乗り入れ授業の実施が円滑に進むよう、各校との連絡調整を緊密に行います。
- ・乗り入れ授業の効果を一層高めるため、指導訪問、子ども教育連携訪問などの機会を活用して乗り入れ授業を行う県費負担教職員及び子ども教育連携教員の指導力の向上を図ります。
- ・より多くの関係団体が参加できるように工夫しながら中学校区ごとに子ども教育連絡協議会を開催し、目指す子ども像の実現に向けた幼保小中間の円滑な接続や交流・連携が一層進むよう支援します。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	1	目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む 幼保小中を一貫した教育の推進	指導課	B
	施策	1-2	自ら学ぶ「草加っ子」の育成		

自ら学ぶ「草加っ子」の育成に向け、学校における日々の授業を充実させます。また、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性をいかし多様な人々との協働を促す教育を推進します。

幼保小中を一貫した教育を推進する中で、児童生徒の発達段階を考慮し、学習の基盤をつくる活動を充実させるとともに、家庭・地域との連携・協働を図りながら、確かな学力を身に付ける取組を更に進めます。児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組めるようにすることや各校でのカリキュラム・マネジメントを確立します。

教員がICTを活用し、教科等の指導の工夫・改善による児童生徒の学習意欲の高揚につなげたり、児童生徒の情報活用能力の育成を推進します。また、児童生徒の発達段階に応じたコミュニケーション能力、課題解決能力、情報活用能力を育成するとともに、情報モラルの向上を図ります。

全小中学校でALTを活用し、ネイティブな英語力を身に付けられる授業を実践し、児童生徒が言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、グローバル化に対応した児童生徒を育成します。

学校図書館教育については、草加市子ども読書活動推進計画に基づき、読書活動の推進等を積極的に行います。

活動内容実績	<p>【「草加っ子の基礎・基本」の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内32校の指導訪問で各教科等の公開授業・研究授業を実施し、基礎・基本の着実な定着と学力向上に向けた授業改善について具体的に指導しました。 「草加っ子の学びを支える授業の5か条」を通して、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の実現に向けた指導を行いました。 第四次草加市教育振興基本計画の目指す「草加っ子」を踏まえ、「草加っ子の基礎・基本」の見直しを行いました。 <p>【各種学力調査の実施と分析・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査(小学校6年生・中学校3年生)、埼玉県学力・学習状況調査(小学校4年～6年、中学校全学年)、草加市学力・学習状況調査(学力調査は小学校3～6年・中学校1・2年、質問紙調査は小・中学校全学年)を実施しました。 調査結果を分析・考察し、学力向上対策研修会を通して課題解決に向けた授業改善について指導しました。 第1回学力向上対策研修会では、大学教授を招聘し、県学力・学習状況調査の意義や分析をするときの視点、調査結果を児童生徒に還元する方法について講演をいただきました。 第2回学力向上対策研修会では、県教育局義務教育指導課指導主事から県学力・学習状況調査結果を校内で共有する際の演習を行い、また来年度調査がCBT化する利点と準備について講義を実施しました。 第3回学力向上対策研修会では、市学力学習状況調査のWeb評価支援システムの活用法についての説明を行い、各校の学力向上に向けた取組を支援しました。 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果分析・考察を市のホームページに掲載し、広く公表しました。埼玉県学力・学習状況調査の復習シート等も掲載し、家庭でも活用できるようにしました。 学力向上担当指導員の学校訪問を通して成果の上がった取組を各校と共有し、学力向上プランの見直し等の学力向上に向けた取組について指導・助言しました。 <p>【児童生徒の学習に対する支援の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりに基礎的な知識及び技能を身に付けさせるために、学習指導補助員・学習補助員を配置しました。 日本語指導が必要な児童生徒に日本語を確実に身に付けさせるため、国際理解教育補助員を配置し、日本語指導を実施しました。 日本に編入してすぐの児童生徒に対して一定期間初歩的な日本語や日本文化を学ぶ機会を提供するため、日本語指導教室「SO KAI いっば」に日本語指導支援員を配置し、日本語指導を実施しました。 全小中学校に語学指導助手(ALT)を配置することで、ALTをコミュニケーションの相手として、本物の英語に触れさせる機会を作り、外国語活動・外国語・英語教育の充実を図りました。 <p>【児童生徒の効果的な学習時間の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校において児童の学力を向上させる場として、草加寺子屋(土曜学習・放課後学習)を年間12回開催しました。(年間13回開催の予定でしたが、9月9日(土)は、台風の影響により全校で中止としました。) 数学の基礎的な知識及び技能を身に付けさせるため、中学校放課後学習を中学校3校で実施しました。 中学校における教員等による補習を行うための環境整備を行い、「草加ジャンプ・アップ教室」を開始しました。 <p>【小学校外国語・外国語活動及び中学校英語教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学教授を講師に、草加市小中学校外国語・外国語活動研修会を開催しました。 市内小中学校教員、市内ALTを対象に、草加小学校にて、草加市小中学校外国語・外国語活動研修会(授業参観)を開催しました。 全小中学校に語学指導助手(ALT)を配置することで、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するための機会を設けました。 小学校では、小学3年生から小学6年生の全授業、中学校では、おおよそ5割程度の授業で、チームティーチングを実施することができました。 中学校における英語検定の実施については、獨協大学との教育支援連携協定に基づき、獨協大学生による学習会を実施しました。また、二次試験対策としてALTとの面接練習会を実施しました。 小学校3・4年生児童を対象に草加イングリッシュキャンプを実施しました。 <p>【学校図書館教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 管理職、司書教諭等を対象に読書活動推進研修会を対面とWeb会議システムで実施し、読書活動推進プラン委嘱校(新田小、長栄小、新田中)の実践発表を行い、成果のあった取組を市内に広めました。また、中央図書館主催の「ビブリオバトル～草加の陣～」に読書活動推進プラン委嘱校3校の代表者が参加しました。 学校図書館利用状況を把握するため、全小中学校の学校図書館図書貸出状況調査を行いました。 学校司書配置による成果及び課題や、各校の取組に関する調査を行いました。 市教育研究会図書館教育部授業研究会や指導訪問の際、学校図書館の情報センターとしての機能をいかした授業改善について指導しました。
--------	---

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	224,112,255	230,283,579	265,711,000
		一般財源	224,112,255	230,283,579	265,711,000
		特定財源	0	0	0
個別 事務 事業 名	学力向上推進事業		15,709,900	15,599,750	17,317,000
	学校教育補助員配置事業		81,264,234	83,508,540	103,677,000
	土曜学習推進事業		4,209,733	3,138,941	4,628,000
	英語教育・国際理解教育推進事業		121,056,821	125,665,890	137,213,000
	日本語指導支援事業		1,871,567	2,370,458	2,876,000
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)		目標値(令和5年度)
	学ぶ力を伸ばし、学力の向上を目指します。				
	指標名				
	全国学力・学習状況調査における県の平均正答率との差		小学校 国語 1.0 算数 1.0	中学校 国語 0 数学 0	全調査種別について、 県平均正答率との差を 0以上とする
	小学校 国語 算数	中学校 国語 数学			
所属評価・達成状況					
<p>小学校の国語は目標値を上回り、小学校の算数、中学校の国語・数学は、県の平均正答率との差が0となりました。引き続き、各校が、全国学力・学習状況調査の分析結果を活用し、児童生徒一人ひとりの学力向上へ向けた授業改善や個別指導の充実等を図るよう指導します。</p>					
令和5年度点検評価委員の意見等					
<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館教育の充実について、ICT化が進んでいる中で、紙の本だけでなく電子書籍を活用できれば読書の機会や図書の貸し出し数の増加につながると感じた。中央図書館と連携し、電子図書館を学校等でも活用するようになると効果的で良いと考える。 ・子どもたちの学力向上については、正答率が全てというわけではないが、全国学力・学習調査における県平均正答率との差が全て0以上となったことは、これまでの活動の積み重ねの成果であり、評価できる。 ・学習指導補助員、学習補助員の配置状況は手厚い体制となっており、今後とも継続してほしい。 ・学習指導補助員、学習補助員は、扶養控除の範囲内で就労している人が多いと思われるが、賃金が上昇傾向であるなかで扶養控除内で就労するため、出勤日数や勤務時間数が減っていることが懸念される。人手不足や限られた予算の中で難しいと思われるが、兼務や人を増やすなどの対応を行い、隙間なく、質を下げることはないよう取り組んでほしい。 ・草加寺子屋について、働き方改革の観点から「平日に時間外勤務をせざる得なくなる」、「土曜日の振り替え休日が取りたくても取れない」といった教職員の負担を少しでも軽減できるような運営を推進してほしい。 ・放課後の草加寺子屋については、下校する児童の安全面などについても課題が出てくると思う。 ・全小中学校へのALTの配置、小学校から英語に触れるといった取組から、英語に関して力が入っていると感じた。県内の公立高校の入試には、英語、数学に難易度の高い問題を入れる高校が増えているため、英語だけでなく、算数・数学に関してもこれまで以上に手厚い支援をしていくことを検討してほしい。 					

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】〔評価B〕

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善について指導し、各校における日々の授業改善を図ったことで、市学力調査結果では児童生徒の学力の定着が見られました。

△「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、1単位時間の授業だけではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した授業改善を、引き続き進めていきます。

【各種学力調査の実施と分析・活用】〔評価B〕

○全国・埼玉県・草加市学力・学習状況調査についての分析を行い、各校がそれぞれの実態に合わせた学力向上に係る具体的取組について計画し、実践することができました。

△児童生徒の学力向上に向け、教育委員会と学校が協働し、引き続き授業改善を図る取組を進めてまいります。

△草加市学力・学習状況調査の実施や返却の時期について検討を進めていきます。

【児童生徒の学習に対する支援の充実】〔評価B〕

○学習指導補助員・学習補助員、国際理解教育補助員、日本語指導支援員、学校司書、学級支援員、語学指導助手（ALT）を配置することで、児童生徒に対する支援や学習環境を整え、児童生徒一人ひとりに対しきめ細かい指導をすることができました。

○日本語指導教室「SOKAいっぽ」において、年間を通して27名通室し、うち20名が修了しました。

○外国語活動・外国語及び英語教育の充実のため、全小中学校にALTを配置し、小学校では全授業、中学校ではおおよそ5割程度の授業においてティームティーチングを実施し、実践的な学びの時間を確保することができました。

○草加市英語検定推進事業の充実を図るため、中学校ALTに加えて小学校配置のALTを中学校に配置し、二次試験対策のための面接練習の場を4日間設けました。

△学習指導補助員・学習補助員、国際理解教育補助員、日本語指導支援員、学校司書、学級支援員、語学指導助手（ALT）の活用を通じて、児童生徒の学習に対する支援の充実を図るため、研修会を充実させ、資質向上を図る必要があります。

【児童生徒の効果的な学習時間の確保】〔評価B〕

○これまでの土曜学習での寺子屋に加え、放課後を使った寺子屋の実施を試験的に行いました。

○草加寺子屋（土曜学習・放課後学習）において、児童が計算や漢字の繰り返し学習に取り組めるように、教育委員会が作成する問題を学習進度に応じて作成・配布しました。また、適宜訪問し、取組状況の確認を行いました。

○草加寺子屋（土曜学習・放課後学習）を円滑に運営することで、児童の学習時間を確保することができました。

△草加寺子屋（土曜学習・放課後学習）をより充実させるため、実施方法等の見直しを進める必要があります。

【小学校外国語・外国語活動及び中学校英語教育の充実】〔評価B〕

○全小中学校に配置したALTを効果的に活用することで、児童生徒が実生活にいかせる英語に触れることができ、生き生きと活動する様子が見られました。

○市内小中学校教員、市内ALTを対象に、草加市小中学校外国語・外国語活動研修会を実施しました。

○中学校3年生の英検3級以上取得相当の生徒の割合が50%で、昨年度に引き続き国の目標値を達成しました。

△中学校の英語検定の実施について、引き続き国の目標値50%を達成するため、引き続き学習会や面接練習等、生徒の学ぶ機会の充実に努める必要があります。

△言語活動を通じた授業を実践できるよう研修を充実させる必要があります。

【学校図書館教育の充実】〔評価B〕

○読書活動推進研修会において、効果のあった取組事例を周知することができました。

○充足率100%を維持しながら、児童生徒一人当たりの学校図書館図書の貸出数の増加が見られました。

○指導訪問等において、図書館資料を使った授業が展開されるなど、教科等の日常的な指導において学校図書館がより活用されるようになりました。

△学校によって一人当たりの学校図書館図書の貸出数に差があります。引き続き、読書活動推進研修会等で成果のあった取組（ピブリオバトルの取組含む）を全校に広める必要があります。

成果
○と課題
△

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】

- ・指導訪問等で「指導の基」を用いた指導・助言を行い、新しくなった「草加っ子の基礎・基本」の定着を推進します。
- ・指導訪問等を通じて、新しく加わった「必要感を高める」に重点を置いた「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の徹底を図るとともに、「草加っ子の学びを支える授業の5か条チェックリスト」等を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のポイントを指導することで、各校の学力向上を推進します。

【各種学力調査の実施と分析・活用】

- ・各校の授業改善や児童生徒の自己肯定感や自己有用感を育むために、学力向上対策研修会を開催し、全国、埼玉県、草加市学力・学習状況調査の分析結果を市内各校に周知するとともに、各校での課題解決に向けた取組を支援します。
- ・指導主事、学力向上担当指導員の学校訪問を実施します。授業参観を行い、その後直接教員を指導する機会を設けるなど、授業改善と教員の指導力を向上させる取組を行います。

【児童生徒の学習に対する支援の充実】

- ・日本語指導を必要とする児童生徒に日本語を確実に身に付けさせるため、引き続き国際理解教育補助員を配置します。
- ・外国語活動・外国語及び英語教育の充実のため、引き続き全校にALTを配置します。また、中学校区に1人、市直接雇用のALTを配置します。
- ・落ち着いた学習環境を整え、個に応じた支援の充実を図るため、引き続き小学校全校に学級支援員を配置します。
- ・日本に編入してすぐの児童生徒に一定期間初歩的な日本語や日本文化を学ぶ機会を提供するため、引き続き日本語指導教室「SOKAいっぽ」に日本語指導支援員を配置します。
- ・派遣会社と連携し、ALTミーティングを年20回実施し、ALTの資質の向上に取り組みます。
- ・直接雇用ALTが市内ALTの授業参観及び指導を行います。
- ・学習指導補助員・学習補助員、国際理解教育補助員、日本語指導支援員、学校司書、学級支援員、語学指導助手(ALT)のより一層の資質向上を図るため、研修会を開催します。

【児童生徒の効果的な学習時間の確保】

- ・小学校において児童の学力を向上させる場として、草加寺子屋(土曜学習・放課後学習)を年間12回開催します。また、希望する学校において草加寺子屋(放課後学習)を試行し、その成果と課題を把握し、効果的な学習機会の確保に努めていきます。
- ・数学の基礎的な知識及び技能を身に付けさせるため、中学校放課後学習を中学校3校で実施し、効果的な学習について検証します。
- ・中学校における教員等による補習を行うための草加ジャンプ・アップ教室を実施し、生徒の多様な学習の場の確保に取り組みます。

【小学校外国語・外国語活動及び英語教育の充実】

- ・小学校の外国語活動・外国語の授業の充実を図るため、研修会を実施し、市内小学校の好事例を広めます。
- ・草加市小中学校外国語・外国語活動研修会を実施し、中学校で研究授業を行います。
- ・外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るため、引き続き全校に語学指導助手(ALT)を配置し、ALTを効果的に活用し、児童生徒が児童生徒が実生活に生かせる英語に触れる教育環境づくりを推進します。
- ・中学3年生の英語検定の実施について、国の目標値50%に引き続き到達できるよう、取組の充実に努めます。
- ・語学指導助手(ALT)の資質向上を図るため、ALTミーティングを活用するなど、研修を充実させます。
- ・草加イングリッシュキャンプ等の、小学校における外国語活動・外国語の充実を図ります。
- ・小学校の教科書変更に伴い、ALTミーティングでの研修を充実させます。

【学校図書館教育の充実】

- ・各校における学校図書館の充実を図るための取組や学校図書館利用状況把握のための、学校図書館図書貸出状況調査を実施します。
- ・国語科での言語活動の指導にあたっては、学校図書館などを計画的に利用し、その機能の活用を図ります。また、他教科における学校図書館の指導との関連を図っていきます。
- ・学校司書を活用し、必要な本や資料を選定するなどして学校図書館活用を推進します。
- ・充足率100%以上を維持し、児童生徒の読書に対する関心を高め、各校の読書活動を推進するため、読書活動推進研修会を開催し、効果のあった取組事例を周知します。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	1	目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む 幼保小中を一貫した教育の推進	指導課	B
	施策	1-3	心豊かな「草加っ子」の育成		

子どもたちの規範意識の低下や人間関係の希薄化、いじめ、不登校などの様々な課題を解決するため、幼保小中を一貫した教育を推進し、子どもたちの豊かな人間性・社会性を育むとともに、全教育活動を通して、道徳教育や「いのちの大切さ」を実感する教育を充実させます。また、幼児期から、人や自然との関わりを広げる豊かな体験活動を通して、感性の形成やコミュニケーション能力の向上を図るとともに、音楽や自然との触れ合いなどの体験活動や読書活動をより一層充実させます。

「学校におけるいじめの防止等のための基本的な方針」や各校の「いじめ防止学校基本方針」に基づき、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、関係諸機関と連携を密にしていじめ撲滅に取り組みます。

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】

- ・指導訪問において、徳の基礎・基本の定着を確認するとともに、「豊かな心の育成」について指導しました。
- ・草加市学力・学習状況調査の「規律ある生活」質問紙調査を分析し、各校に周知しました。
- ・学力向上担当指導員訪問において、学力向上プランを基に、中学校区の連携を踏まえた学習規律に関する情報提供や指導を行いました。
- ・第四次草加市教育振興基本計画の目指す「草加っ子」を踏まえ、「草加っ子の基礎・基本」の見直しを行いました。

【道徳教育の充実】

- ・「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」における外部指導者の派遣、道徳教育推進教師を対象にした「特別の教科 道徳の指導と評価」の講義及び「道徳科の効果的な発問づくり」の演習に関する研修会を通して「考え、議論する道徳」について指導しました。
- ・指導訪問等において、「特別の教科 道徳」の授業を参観し、考え・議論する授業づくりについて指導することや、「私たちの道徳」「彩の国の道徳」を活用した授業について指導・助言をすることで、授業改善を図りました。

【「いのちをつなぐ教育」の推進】

- ・「いのちを大切に教育」として、全校で造血幹細胞移植等に関する授業を行いました。
- ・豊かな心推進事業として、造血幹細胞移植等に関する赤ちゃん人形を使用した授業を小学校全校、講演会を全中学校で実施しました。

【音楽教育の推進】

- ・学校クラスコンサートを小学校全21校で実施しました。
- ・草加市教育研究会との共催で市内音楽祭を開催しました。
- ・南部南地区音楽会の実施に向け支援しました。
- ・児童生徒対象の吹奏楽実技研修会を2回実施しました。

【自然と触れ合う体験活動の推進】

- ・小学校は、奥日光自然の家で6校、昭和村で3校、国立赤城青少年交流の家で8校、国立那須甲子青少年自然の家で4校、2泊3日で自然教室を実施しました。
- ・中学校は、国立磐梯青少年交流の家で9校、国立妙高青少年自然の家で1校、国立那須甲子青少年自然の家で1校、2泊3日で自然教室を実施しました。

【読書活動の推進】

- ・管理職や司書教諭等を対象に、児童生徒の読書活動を推進するための読書活動推進研修会を対面とWeb会議システムで実施し、「読書活動推進プラン」委嘱校3校(新田小、長栄小、新田中)の実践発表等を行い、効果のあった取組を市内に広めました。

【生徒指導の充実】

- ・いじめ撲滅サミットを中央公民館ホールで開催しました。今年度は、小中学校の代表児童生徒が事前に協議を行い、その成果を発表しました。
- ・学校警察連絡協議会では、2回の全体会・研修会を開催しました。研修会では、少年非行や鑑別所等について理解を深めることができました。
- ・各校において、学級集団アセスメント検査(Q-U検査)の結果を基に対策を講じ、学級経営の改善に活用しました。
- ・いじめ等相談アプリ「STANDBY」を中学校の全学年に導入しました。長期休業の前に啓発カードを配布して登録及び利用の促進を図るとともに、いじめの未然防止・早期発見に努めました。
- ・「草加市いじめ問題対策連絡協議会等条例」に基づき、草加市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催しました。

活動内容実績

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	101,236,865	107,228,157	139,850,000
		一般財源	95,765,307	103,157,797	133,086,000
		特定財源	5,471,558	4,070,360	6,764,000
個別 事務 事業 名	豊かな心推進事業	1,917,600	1,122,017	129,000	
	音楽教育推進事業	1,381,530	1,402,906	1,825,000	
	自然教室推進事業	43,349,913	44,849,288	60,972,000	
	生徒指導推進事業	51,302,383	56,113,345	72,814,000	
	いじめ撲滅推進事業	3,285,439	3,740,601	4,110,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	時と場に応じて自ら行動し、けじめがあり、責任のある行動がとれることを目指します。				
	指標名		①91.7% ②97.6%	①100% ②100%	
	「草加っ子の基礎・基本」における規律ある生活が定着(80%以上)している項目の割合 ①小学校 ②中学校				
	所属評価・達成状況				
<p>「机やロッカーの整理をすることができる」の質問項目について、小学校は1・2・4・5・6年生が、中学校は1年生が達成できませんでした。「草加っ子の基礎・基本」を様々な場面で周知し、規律ある生活が身に付くよう各校に指導します。</p>					
令和5年度点検評価委員の意見等					
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で自然と触れ合う、体験するといった機会が減った中で、自然教室の場所を分散させるなど様々な努力をしていると感じた。 ・様々な行事が縮小傾向であるが、スケジュールが合えばスキーや合唱コンクールも児童のために継続してほしい。 ・いじめ等相談アプリである「STANDBY」について、一定の効果が認められるため、中学校だけでなく小学校高学年についても、毎年段階を踏んで1学年ずつ利用の拡大をするなどを検討してほしい。 ・命をつなぐ教育について、内容が「造血幹細胞移植」等と児童には難しい内容であると感じた。今後は、社会的に話題に上がっている性教育についても取り上げていくことも検討してほしい。 ・生徒指導の中で警察との連携は重要であると感じるが、同時に少年非行については法に触れることも想定されるため、弁護士との連携も検討してほしい。 					

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】【評価B】

○草加市学力・学習状況調査における質問紙「規律ある生活」の調査結果では、小学校の「机やロッカーの中の整理整頓をすることができる。」以外の項目においては、80%以上の達成状況となりました。

○学習規律に関する取組について、中学校区で改善が見られました。

△草加市学力・学習状況調査の結果から、各学年の調査項目の達成率が低い取組について、改善を図る必要があります。

【道徳教育の充実】【評価B】

○「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」において小中学校全32校で研究授業を行うとともに、道徳推進教師研修会を開催することで、各校において、授業づくりの改善が進みました。

△各校の実態に応じた「特別の教科 道徳」の実践を共有し、指導方法や評価についての研究を更に深めることが必要です。

【「いのちをつなぐ教育」の推進】【評価B】

○造血幹細胞移植等の授業を通して、児童生徒はいのちの大切さやいのちのつながりについて考えを深めることができました。

○小学校で、造血幹細胞移植等に関する赤ちゃん人形を使用した授業を行い、いのちの大切さについて考えを深めることができました。

○中学校で、日本赤十字社と連携し、講演会を実施し、いのちの大切さについて考えを深めることができました。

△いのちの教育グランドデザインに基づき、各校で「いのちをつなぐ教育」に係る授業を、引き続き計画的に実施する必要があります。

【音楽教育の推進】【評価B】

○全小学校で学校クラスコンサートを実施し、プロの演奏を聴くことを通して、豊かな感性を育てる一助となりました。

○「音楽づくり・創作」に関する研修会を開催し、授業改善の充実が見られました。

△今後の市内音楽祭の在り方について、市教育研究会と協議を行い、実施方法等の検討を進める必要があります。

△吹奏楽実技研修会の実施回数について検討する必要があります。

【自然と触れ合う体験活動の推進】【評価B】

○奥日光自然の家、昭和村、国立青少年教育振興機構の4施設で2泊3日での自然教室を実施しました。また、磐梯において冬季の自然教室を中学校2校で実施し、自然と触れ合う体験活動を拡大することができました。

○豊かな自然の中での体験活動と仲間との触れ合いを通して、より良い人間関係を築き、心豊かな児童生徒の育成を図ることができました。

△傷病者が発生した際、現地での児童生徒輸送のため現地タクシーを活用できるよう手配したが、現地の医療機関との連携や保護者のお迎え要請など課題として挙げられます。

【読書活動の推進】【評価B】

○読書活動推進研修会において、読書に関心をもたせる取組(ビブリオバトル等)を周知することができ、各校におけるビブリオバトルを推進することができました。

○「読書活動推進プラン」委嘱校の実践を市内に広めることができました。

△管理職や司書教諭等を対象とした、効果的、実践的な研修会を継続して行う必要があります。

△学校図書館の一層の充実を図るため、効果的な取組等を引き続き周知していく必要があります。

【生徒指導の充実】【評価B】

○いじめ撲滅サミットを中央公民館ホールで開催しました。小中学校の代表児童生徒が事前に協議を行い、その成果を発表し、いじめ撲滅の意識の醸成を図るため、いじめ撲滅サミット宣言を唱和しました。

○学校警察連絡協議会を開催し、特に少年鑑別所との連携に関する研修では、その重要性を理解するとともに、今後の連携についての理解を深めることができました。

○全小中学校におけるいじめアンケートを5回以上実施するとともに、いじめ等相談アプリ「STANDBY」を導入するなど、いじめの早期発見や早期対応ができる体制を整備しました。

△全ての児童生徒に、常態的・先行的に行われる発達の生徒指導を推進し、不登校やいじめ、暴力行為等について未然に防ぐための取組を進める必要があります。

△市内の情報共有やいじめ防止対策のための会議を計画的に開催する必要があります。

成果
○と課題
△

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】

- ・目指す「草加っ子」で重視する自己肯定感、自己有用感、他者理解の育成の観点から、「自分のよさを大切にします」「友達を認め大切にします」を重点にした新しい「草加っ子の基礎・基本」について周知します。
- ・規律ある生活について、今後も更なる徹底(特に令和4年度の課題である「机やロッカーの中の整理整頓」)を図る必要があり、指導訪問等を通して各校の取組について指導・助言します。
- ・他課・室とも連携し、生活習慣の改善等の良い取組を広く学校に周知します。

【道徳教育の充実】

- ・「考え、議論する道徳」の実現に向け、明確な課題を持たせた校内研修に指導・助言します。
- ・学校訪問等を通して、考え・議論する授業づくり、及び、年間指導計画の確認と文部科学省発行の「私たちの道徳」、埼玉県教育委員会発行の「彩の国の道徳」の年間指導計画への位置付け及び効果的な活用について指導・助言します。
- ・「よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」を実施し、小中学校16校で研修を進めるとともに、近隣校での交流を通じ、他校の実践から学び合う機会としていきます。

【「いのちをつなぐ教育」の推進】

- ・引き続き全小学校で赤ちゃん人形を使用した授業や中学校での講演会等をはじめ、すべての教育活動を通して、いのちを大切に教育について充実させていきます。

【音楽教育の推進】

- ・児童生徒の豊かな心を育むため、プロの演奏を直接聴く学校クラスコンサートをはじめ、市内音楽祭や埼玉県小・中学校音楽会南部南地区大会を支援します。
- ・豊かな心を育むための授業改善を図るため、音楽科研修会を開催します。
- ・合唱や合奏などの活動で互いに認め、助け合いながら真剣に取り組むことを通じ、人との望ましい関わり方を学ぶことができるよう、吹奏楽実技研修会を開催し、音楽教育の充実を図ります。

【自然と触れ合う体験活動の推進】

- ・国立青少年教育振興機構での自然教室を中学校全11校及び小学校13校で実施します。また、昭和村での自然教室を小学校3校、奥日光での自然教室を小学校5校で実施します。
- ・実施前に現地研修会を行い、安全・安心で豊かな自然体験活動が実施できるようにします。また、自然教室検討委員会を開催して自然教室の在り方を検証します。
- ・児童生徒一人ひとりが自然の恵みや美しさに触れる体験を通じ、豊かな感性を育みます。また、仲間との触れ合いを通して、より良い人間関係を築き、心豊かな児童生徒の育成を目指します。

【読書活動の推進】

- ・各校におけるビブリオバトルを推進するとともに、中央図書館主催の「ビブリオバトル～草加の陣～」に小中学生が参加します。
- ・読書活動の成果のあった取組やビブリオバトル等の読書への関心を高める取組等を市内各校に広めます。
- ・家庭との連携を図りながら読書活動を啓発していきます。
- ・管理職や司書教諭等を対象とした、効果的、実践的な研修会をWeb会議システムも活用しながら実施します。

【生徒指導の充実】

- ・全ての児童生徒に、常態的・先行的に行われる発達の生徒指導を推進し、不登校やいじめ、暴力行為等について未然に防ぐための学校の取組を支援します。
- ・関係機関と一体となった指導を行うため、幼・保・学校と家庭・地域、警察などとの連携を図ります。
- ・市のいじめ防止基本方針を指針として、各校のいじめ防止学校基本方針の見直しを図ります。定期的にいじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめ問題の未然防止、早期発見に努めます。
- ・学校警察連絡協議会等の会議や研修を充実させます。
- ・いじめや不登校、暴力行為の未然防止に向けて、学級集団アセスメント検査(Q-U検査)を実施するとともに不登校生徒対応に重点を置く中学校学習指導補助員を配置します。
- ・いじめ等相談アプリ「STANDBY」を引き続き中学校全学年に導入します。中学1年生への脱傍観者授業の実施に加え、希望する中学校には2・3年生向けのいじめ防止啓発授業を実施できるよう準備を進めます。
- ・「いじめ撲滅サミット」を開催し、自分たちの力でいじめを撲滅しようとする心情や態度を育てます。
- ・いじめ防止対策のために草加市いじめ問題対策連絡協議会を開催します。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価 B
	基本目標	1	目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む 幼保小中を一貫した教育の推進	指導課 学務課	
	施策	1-4	たくましく生きる「草加っ子」の育成		

心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持・増進し、豊かな人生を送れるよう、力いっぱい運動し、しっかり食事をとり、ぐっすり睡眠をとる、健康でたくましい児童生徒の育成を目指します。そのために、幼保小中を一貫した教育を推進する中で、草加市体力向上推進委員会と連携しながら、体力・運動能力の向上に向けた取組を推進します。子どもたちが楽しみながら様々な動きを体験することにより運動が好きになり、運動の特性に応じた知識及び技能を身に付けることができ、その積み重ねにより、体力・運動能力の向上を図ります。また、「草加市中学校部活動の方針」を基に、中学生のよりよい部活動の実践を図ります。

学校給食業務では、給食事業全体の収支を踏まえ、市内の地場産の食材、埼玉県内産の食材を積極的に活用するとともに、アレルギー対策などを講じ、安全でおいしい草加の給食を提供します。また、給食費の公会計化が円滑に推進できるように準備を進めます。

栄養教諭を中心とした家庭科や特別活動等の授業等で栄養バランスのとれた食事、朝食の摂取率を高めるだけでなく、どのような朝食を、どのような状況でとっているのかを意識させ食育の充実を図ります。

学校保健を充実し、健康でたくましい児童生徒の育成を図ります。

活動内容実績	<p>【「草加っ子の基礎・基本」の定着】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導訪問や授業研究会等を通して、体育・保健体育の授業で児童生徒の体力向上を図るための指導法や教材・教具の工夫等、各校で手立てを講じるよう指導を行いました。 第四次草加市教育振興基本計画の目指す「草加っ子」を踏まえ、「草加っ子の基礎・基本」の見直しを行いました。 <p>【体力向上プランの改善】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校の体力向上プランと授業での児童生徒の実態等を踏まえ、プランが適切かどうか検討し、必要に応じて改善を図るよう、指導訪問を通じて指導・助言しました。 体力向上推進委員会で体力向上に向けた取組の検討・実践を行いました。教職経験1年目から5年目の教員や、体育の指導を苦手とする教員を対象に、小学校で跳び箱運動の研究授業(提案授業)を行いました。研究協議会では、体育・保健体育の授業改善及び指導方法について、小中の教員が意見交換を行いながら協議を行いました。なわとび強化月間、広報誌「草加っ子」での実践事例の紹介など、体力向上に向けた取組を周知するとともに、指導訪問等を通じて指導・助言しました。 <p>【体育・保健体育の授業の改善】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学校体育連盟及び草加市体力向上推進委員会と連携して授業研究会を実施し、小中学校の教員が体力向上を図る指導方法を共有しました。 体力向上推進委員会活動報告会・講演会において、草加市の児童生徒の体力の現状や体力向上についての取組例の紹介やなわとび運動の奨励など、市内小中学校の教員を対象に、体力向上のための具体的な取組を指導しました。 <p>【運動の日常化の推進】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報誌「草加っ子」において、日常的に取り組める補強運動の紹介や、なわとびのこつなどについて周知し、運動の日常化を推進しました。 「草加っ子なわとび強化月間」では、市内小中学校なわとび大会の代替として「なわとびチャレンジ2023」を各校で実施し、体力の向上を図るとともに、日常的に運動に親しむ意識の高揚を図りました。 <p>【生活習慣の改善】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力向上推進委員会と連携するとともに、家庭の協力も得ながら、各校において生活習慣の改善に取り組みました。 体力向上推進委員会と連携して作成した広報誌「草加っ子」を発行し、健康な体づくりのための食事について、運動と睡眠について、スポーツと栄養について啓発しました。 「草加っ子の基礎・基本」を徹底し、健康への意識の高揚を図りました。 <p>【中学校部活動の推進】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動に対する指導体制の充実を図るために、部活動指導員を6名配置しました。 中学校に部活動外部指導者を派遣し、生徒の活動を支援しました。 教職員及び中学生1・2年生を対象に部活動の地域移行や地域クラブ活動についての意識調査を実施しました。 休日の部活動の地域移行や地域連携、地域クラブ活動について、関係各課と情報を共有するための会議を実施しました。 <p>【学校給食の推進】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 献立会議(11回)を実施しました。 備品の購入、修繕及び消耗品の補充を適切に行いました。 腸内細菌検査を定期的(月2回)に実施しました。 地場産食材の導入を推進し、調査を通じて使用状況を確認しました。 目標値30t、実績値:30.4t 公会計化検討委員会を3回開催しました。 物価高騰に対応し、各学校に対して食材費補助金を交付しました。 <p>【食育の推進】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校栄養職員の指導訪問を実施し、担任の先生と連携して専門性の高い授業を行えるよう指導することで、食育の充実につなげました。 学校給食に「一汁二菜」の日を設け、食と文化の理解を深めました。 学校給食展を4年ぶりに中央公民館にて開催し、児童生徒の作品展示や給食歴史動画の放映を通し、本市の学校給食の取組について市民に広く知っていただく機会としました。 「ひろがれおいしいにおい」を、パンフレット形式(カラーページ)で作成し、新入学児童等に配布しました。 <p>【学校保健の充実】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の各種健康診断(定期健康診断、尿検査、心臓検診、結核精密検査、小児生活習慣病予防健診・脊柱側彎症検診、貧血検査、就学時健康診断)を実施しました。 日本スポーツ振興センターに係る児童生徒の負傷等療養費の支払いを、学校を経由せず、直接市から保護者へ振り込むことを推奨し、学校の負担軽減を図りました。 学校保健会理事会を開催し、学校保健における課題の解決に向けて検討しました。 4年ぶりとなる、草加市学校保健会総会及び講演会を開催しました。 各種感染症について、学校と感染状況の情報共有を行いながら、感染拡大防止に努めました。 歯・口の健康に関する図画・ポスター及び健康啓発標語コンクールに応募し、児童生徒のポスター及び標語が埼玉県歯科医師会優秀賞を受賞することができました。
--------	---

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	440,481,854	524,689,166	503,022,000
		一般財源	415,052,314	452,857,019	435,290,000
		特定財源	25,429,540	71,832,147	67,732,000
個別 事務 事業 名	学校体育推進事業	3,158,690	4,621,894	6,210,000	
	中学校部活動推進事業	8,360,379	8,496,731	12,321,000	
	学校給食推進事業(小・中学校)	323,324,577	324,918,674	331,158,000	
	学校給食管理運営事業	23,936,595	106,124,865	65,082,000	
	就学時健康診断等事業	2,483,281	2,568,254	2,695,000	
	学校保健安全衛生・各種健康診断事業(小・中学校)	79,218,332	77,958,748	85,534,000	
	学校医等の公務災害補償事務	0	0	22,000	
	放射線対策事業	0	0	0	
成果 指 標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	(1) 児童生徒の体力・運動能力の向上を目指します。 (2) 学校給食における市内産農産物の使用量(累計) (3) 市内小中学校におけるむし歯治療率		(1) ①77.5% ②81.5%	(1) ①85% ②85%	
	指標名		(2) 110.2t (累計)	(2) 120t (累計)	
	(1) 新体力テストにおける体力・運動能力が総合評価A～Eの5段階中C以上の児童生徒の割合 ①小学校 ②中学校 (2) 学校給食における市内産農産物の使用量(累計) (3) 市内小中学校におけるむし歯治療率		(3) 小学校 70.4% 中学校 66.0%	(3) 90%	
	所属評価・達成状況				
(1) 小中学校とも目標値には達しませんでした。体力向上推進委員会とも連携し、各校の効果的だった取組を共有しながら、児童生徒の体力・運動能力の向上を目指します。 (2) 令和4年度までの使用量は79.8tで、令和2年から令和5年度までの累計値は110.2tでした。目標値には達しませんでしたでしたが、地場産農家と連携しながら多くの種類の地場産野菜を使用することができました。 (3) 食後の歯みがきやうがいの実施について、学校歯科医と連携し、学校、保護者への啓発に努めました。むし歯治療率の向上をめざすと同時に、発生率の減少をめざして、フッ化物洗口の普及や歯みがき教室の取組の充実を図ります。					
令和5年度点検評価委員の意見等					
<ul style="list-style-type: none"> ・地場産食材の使用量を成果指標の目標値に掲げるのは、地域・児童ともに良い面があるため、継続して取り組んでほしい。 ・材料費の高騰、食品ロスが社会問題となっているため、規格外の野菜を活用することを視野に入れてもよいのではないかとと思う。 ・給食費については、無償化が進んでいる自治体もあるため、他自治体や国の動向を確認しながら検討してほしい。(公会計化は草加市でも進められているため。) ・中央公民館で行われた給食展は、レシピ公開など学校給食と触れ合える良い機会であった。 ・子どもたちから草加の給食はおいしいという声もあり、草加の給食はとても良いものであると感じた。 ・アレルギーの事故が起きていないことは評価できるが、命に直結している課題であるため100パーセントの防止を目指し、エビペン接種の練習や研修会、保護者・養護教諭・栄養士との情報共有など、継続して取り組んでほしい。 ・中学校の部活について部活動指導員、部活動外部指導員を配置するなど努力していると感じた。 ・中学校の部活動の地域移行については、国の意向が変わることなども想定されることから、自治体としては動きにくいところがあると思うが、地域連携をしていく場合、保護者がどこまで引き受けるのか、保護者をどのように巻き込んで進めていくのか議論になると思う。 ・少子化等もあり部活動の地域移行について、草加市としても地域連携検討会議、検討委員会等の組織づくりを行い、検討を進めてほしい。 ・運動の日常化は、子どもが外に遊ぶ機会が減っているためとても重要となっている。そうした中で、なわとびは、場所も取らず、一人でもできるため子どもたちの運動の日常化の推進として、とても良い取組であると感じた。 ・運動の日常化は子どものときだけでなく生涯にわたって必要であると考えられるため、生涯学習課と連携して大人に対しても推進してよいと思う。 					

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】【評価B】

○指導訪問や体力向上推進委員会と連携した授業研究会等を通して、各校における体育・保健体育の授業改善を図りました。
 △新体力テストの分析・検証をいかした具体的な指導方法を周知する必要があります。
 △日常的に運動している児童生徒とそうではない児童生徒の体力及び運動能力の二極化の解消へ向け、教育活動全体を通して体力向上を図る手立てを講じる必要があります。

【体力向上プランの改善】【評価B】

○指導訪問等での指導・助言を通して、体力向上プランの改善を図りました。
 △体力向上プランの改善につながるよう、指導訪問等を通して授業改善のポイントや体力向上の取組等を周知する必要があります。
 △児童生徒の体力の実態等を踏まえ、より実効性のある体力向上プランになるよう指導する必要があります。
 △新体力テストの結果では、県平均との比較で、上回る項目が小学校では20項目、中学校では18項目、下回る項目が小学校では23項目、中学校では4項目で、小学校における体力向上が課題と言えます。

【体育・保健体育の授業の改善】【評価B】

○体育・保健体育の授業を核に、学校生活の様々な場面において、児童生徒が知識及び技能を身に付けるとともに、体力の向上が見られました。また、小中学校体育連盟及び草加市体力向上推進委員会と連携して、授業研究会を実施し、各校の取組を周知することができました。
 ○健康がんばりカードの取組や体育・保健体育の授業で感覚つくりの運動や補強運動等を行い、健康への意識の高揚や体力の向上が見られました。
 ○広報誌「草加っ子」において、日常的に取り組める補強運動の紹介や、なわとびのこつなどについて周知することを通して、運動の日常化が進みました。
 △各校の体力課題について教員全体で共通理解を図り、具体的な手立てを講じ、実践していくことが求められます。

【運動の日常化の推進】【評価B】

○各種大会を中止する中で、市内小中学校なわとび大会の代替として「なわとびチャレンジ2023」で前回し跳びや二重跳び、今年度から8の字跳び等も推奨し、各校で実施することで体力の向上や日常的に運動に親しむ意識の高揚が見られました。
 ○3年ぶりに市内陸上競技大会を開催し、児童の練習の成果を発揮する場をつくることができました。また、学校対抗相撲大会についても、教職員の協力のもと、開催することができました。

【生活習慣の改善】【評価B】

○家庭の協力も得ながら、各校において健康な体づくりのための運動と食事について、生活習慣の改善が図れるよう広報誌「草加っ子」の発行を通して啓発を行いました。
 △規則的な生活習慣の励行に関する家庭との連携の在り方について、指導訪問等を通して、優れた実践を市内に広める必要があります。

【中学校部活動の推進】【評価B】

○部活動指導員6名と部活動外部指導者54名が指導を行いました。
 ○関東大会に6校、全国大会に4校の生徒が出場しました。
 ○教職員及び中学生1・2年生を対象にアンケート調査を実施し、部活動の地域移行に関する現状把握に努めました。
 △「草加市中学校部活動の方針」や各中学校で作成した「部活動の方針」に基づき、引き続き活動内容の充実を図り、部活動を適切に実施する必要があります。
 △運動部活動を推進し、更なる体力の向上を図る必要があります。
 △部活動の地域移行や地域クラブ活動との連携について、関係各課と連携を図りながら、検討を進めていく必要があります。

【学校給食の推進】【評価A】

○アレルギー対応を丁寧に行い、大きな事故ゼロとなりました。
 ○給食会計の透明化、保護者・教職員の負担軽減のため給食会計の公会計化に向けた検討委員会を3回開催しました。公会計化に伴い検討を要する事項について、議論が進みました。
 ○食料費補助金を交付することで、物価高騰に対応し、学校給食の質と量を維持しました。
 △公会計化への移行時期について、関係する学齢簿システム等の更新と調整が必要です。

【食育の推進】【評価A】

○学校給食展(児童生徒のポスター・標語等の作品及び給食サンプル等の展示、給食歴史動画の放映、各種体験コーナーの設置等)を4年ぶりに中央公民館において開催したことで、本市の学校給食の取組について市民に広く知っていただく機会とすることができました。
 ○食育指導力向上授業研究協議会を実施し、学校関係者が研究授業や講演会を通して食育について学びを深めることができました。
 ○栄養教諭の指導訪問を実施し、職務内容の確認と食に関する指導の実態把握を行うことで、食育指導の充実につなげました。
 ○市ホームページ内の学校給食レシピの掲載数を増やしました。
 △学校給食摂取基準の塩分量適合のため、減塩方法を検討する必要があります。

【学校保健の充実】【評価B】

○草加八潮医師会、学校保健会と協議のうえ、学校での脱衣を伴う健康診断について、着衣を基本として実施するよう方針を決定し、文科省からの通知をもとに健康診断時は児童生徒のプライバシーや心情に配慮した環境整備に取り組むよう、学校及び学校医と共通理解を図りました。
 △児童生徒のむし歯治療率の向上に努める必要があります。

【「草加っ子の基礎・基本」の定着】

・指導訪問等で「指導の基」を用いた指導・助言を行い、新しくなった「草加っ子の基礎・基本」の定着を推進します。運動習慣の二極化を解消するために、特に運動が苦手な児童生徒でも運動を楽しめるよう、場の工夫や教材・教具の工夫等について指導・助言します。また、授業の振り返りが次時の導入につながるような授業の組立て方について指導していきます。

・「体」の基礎・基本については、指導訪問を通じて体育・保健体育の授業を中心に徹底を図り、児童生徒の体力及び運動能力の向上を推進します。

【体力向上プランの改善】

・草加市体力向上推進委員会を開催し、新体力テスト等で明らかになった体力及び運動能力の課題に基づいた授業改善のポイントや体力向上の取組を周知し、体力向上プランの改善に向けた支援を行います。

・体力向上プランの改善及び体育・保健体育の授業を核とした体力及び運動能力を向上させる取組について、学校訪問等を通じて指導・助言します。

【体育・保健体育の授業の改善】

・小中学校体育連盟、草加市体力向上推進委員会と連携しながら、研修や授業研究会を通じて教員の指導力を高め、体育・保健体育の授業改善を推進します。

・児童生徒の適切な運動量を授業の中で確保し、日常的に運動しない児童生徒にも運動を習慣化させる取組等について指導訪問等を通じて指導・助言します。

・幼保小中を一貫した教育を通して児童生徒の体力及び運動能力の向上を図るため、指導訪問等を通して、良い取組事例を紹介するなど、各校を支援します。

【運動の日常化の推進】

・「草加っ子なわとび強化月間」におけるなわとびチャレンジの各校の記録をまとめ、周知することで児童生徒の運動への意欲化、日常化を推進します。

・指導訪問や授業研究会等を通して、教師の指導技術の向上を図り、日常的に運動に親しめるような取組を推進します。

【生活習慣の改善】

・各校における、朝食の摂取、テレビ等の視聴時間、睡眠時間の確保等の基本的な生活習慣の改善を図る取組を、他課・室と連携し、支援します。

・「体」の基礎・基本である「しっかり食事 ぐっすり睡眠」の生活習慣を児童生徒が身に付けるため、新しくなった「草加っ子の基礎・基本」の徹底について指導するとともに、各校の良い取組事例を指導訪問等を通して周知します。

【中学校部活動の推進】

・「草加市中学校部活動の方針」や各校の「部活動の方針」を周知・徹底し、部活動の適切な実施を推進します。

・部活動に対する指導体制の充実を図るために、技術指導だけではなく、大会等の引率や生徒指導なども各校の教員と連携して行うことができる部活動指導員を引き続き6人配置します。

・中学校部活動では、競技・技能レベルの向上のため、専門的な指導力を有する地域の外部人材(部活動外部指導者)の協力を受け、部活動の充実を図ります。

・休日の部活動の地域移行や地域クラブ活動との連携に向けて、実態調査や協議会の設立等を進めていきます。

【学校給食の推進】

・給食会計の公会計化に向け、必要な経費や人員体制、具体的な運用方法やシステム導入等の検討を引き続き行います。

・草加市産の食材を積極的に使用できるように食育応援農家を含めた地元生産者と連携を図り、草加市産の食材の積極的な使用を促進します。

【食育の推進】

・市や学校のホームページに本日の給食の写真やコメント、レシピやレシピ動画を掲載することで、安全安心でおいしい草加の給食を発信していきます。

・栄養教諭や学校栄養職員の実践について、データや使用した教材を共有できるような仕組みを検討します。

・「ひろがれおいしいにおい」のパンフレットを通じて、草加の給食について周知を図ります。

【学校保健の充実】

・むし歯治療の意識向上を啓発するため、「わたしの歯っぴーファイル」の活用を今後も促すとともに、歯みがき指導の充実を図ります。

・フッ化物洗口の実施校の拡大を行い、児童生徒のむし歯治療率の向上に努める必要があります。

・学校保健連絡会(学務課主催)を通じて、各校における保健指導の充実を図るよう、養護教諭に指導していきます。

・児童生徒の各種健康診断の実施方法を見直し、着衣を基本として児童生徒のプライバシーや心情に配慮した実施を推奨します。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価 B
	基本目標	1	目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む 幼保小中を一貫した教育の推進	教育支援室 学務課 総務企画課	
	施策	1-5	多様なニーズに対応した教育と支援の充実		

児童生徒の不登校などに対応するため、様々な教育相談活動を推進するとともに、スクールソーシャルワーカーや学校支援指導員などの派遣を通じ、学校や関係諸機関と連携を深めることで、一人ひとりの状況に応じた、きめ細かな支援の充実を図ります。さらに、学校適応指導教室の活動を充実させるとともに、学校との連携を深めることで、児童生徒の自立と学校生活への適応を支援できるような環境づくりを推進します。

特別な配慮を要する児童生徒の多様化する教育的ニーズに対応し、一人ひとりのよさや可能性を最大限に発揮できるよう、適切な情報提供を行い、丁寧な相談活動を推進するとともに、十分な環境整備や支援体制を構築していきます。更には、医療・福祉などの関係機関との連携や、特別支援学校が担うセンター的機能を活用し、埼玉県立草加かがやき特別支援学校等との連携に取り組み、個に応じた特別な教育支援の充実を図ります。

また、ノーマライゼーションの理念に基づき、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築に向け、特別支援学級、通級指導教室の担当教員の育成及び通常学級に在籍する発達に課題があると思われる児童生徒への支援に向け、通常学級を含めた全教員の指導力の向上に取り組むとともに、埼玉県立草加かがやき特別支援学校や埼玉県立越谷特別支援学校等との支援籍学習を推進します。

就学援助制度については、国や県及び他市町の動向を確認しながら、所得制限を基準にした認定を行い、透明性を確保しながら運営を進めます。また、入学準備金を含め就学援助制度について、就学時健康診断や入学説明会等の様々な機会と同制度の周知を図ります。中学校の部活動費等については、他市町の動向や支給方法等について検討を進めていきます。

入学準備金、奨学資金貸付制度については、他自治体の動向などを踏まえ、より利用しやすい貸付制度の検討を進めます。また、入学準備金及び奨学資金の滞納対策が急務であることから、滞納解消に向けた法的措置等の具体的な取組を実施します。

活動内容実績	【教育相談の充実】(教育支援室)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・就学相談日を令和4年度より一日増やすなど教育支援室の相談体制を充実させ、年間延べ9,000件以上の相談を実施し、悩みを抱える児童生徒やその保護者に寄り添った支援を行いました。 ・いじめや不登校等についての相談対応として、臨床心理士・臨床心理専門員2人、巡回相談対応として臨床心理士1人を配置し、児童生徒・保護者への支援を行いました。 ・スクールソーシャルワーカー11人を全中学校区に派遣し、学校だけでは解決が難しい不登校や児童虐待などの諸問題に関して、こども家庭課及び児童相談所等の関係諸機関と連携を図りながら、一人ひとりの状況に応じた支援を行いました。 ・さわやか相談員11人を全中学校へ配置し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携した支援を行いました。 ・ふれあい教室活用22人の児童生徒の自立と学校生活への適応のため、学校と連携した支援を行いました。 				
	【特別支援教育の充実】(教育支援室)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の整備を全小中学校に行いました。(知的障害特別支援学級38学級、自閉症・情緒障害特別支援学級49学級) ・特別支援教育指導員による特別支援学級への訪問指導を行いました。(学校訪問 延べ135回) ・あおば学園、こども家庭課、市内幼稚園・保育園等と連携し、就学予定児についての情報共有・行動観察をもとに、丁寧な就学相談に努めました。(就学予定児の就学相談 延べ526人) ・巡回相談対応として臨床心理士を派遣し、児童への支援について学校と連携を図りました。 ・指導主事・臨床心理士等による発達相談及び就学相談を行いました。(延べ1,934件) 				
	【特別支援教育の就学奨励費の補助】(教育支援室)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育就学奨励費を3期に分けて支給しました。 支給者数 239人(小学校 174人・中学校 65人) 支給額 8,411千円(小学校 5,379千円・中学校 3,032千円) 				
	【埼玉県立かがやき特別支援学校等との連携】(教育支援室)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の説明会や学校体験の日程について各校及び当該保護者へ周知しました。 ・支援籍学習が実りあるものにするため、各校へ情報を提供するとともに、調整を図り、推進に努めました。 ・特別支援学校のセンター的機能を活用し、各校との連携を図りました。 ・巡回・教育相談を行い、支援を必要とする児童生徒の実態を把握し、支援方法の理解を深めました。 				
	【一人ひとりに応じた就学援助の充実】(学務課)				
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で要保護87人、準要保護1,393人、延べ1,480人の児童へ就学援助の認定や就学援助費の支給を適正に行いました。 ・中学校で要保護61人、準要保護786人、延べ847人の生徒へ就学援助の認定や就学援助費の支給を適正に行いました。 ・在校生には2月、新入学児童生徒には入学説明会時に、就学援助のお知らせや申請書を全員に配布し、就学援助制度の周知を図りました。 ・小学校新1年生及び中学校新1年生に入学準備金の事前支給を行い、保護者の経済的負担の軽減を図りました。 ・学校の事務職員と連携して、就学援助の申請方法を見直し、令和6年度から保護者及び学校の事務負担を軽減した方法の採用を決定し、利便性の向上に努めました。 ・自然教室費について、指導課と連携し、保護者口座に直接入金する方式に変更し、学校の事務負担軽減を図りました。 				
【入学準備金及び奨学資金貸付制度の見直し】(総務企画課)					
<ul style="list-style-type: none"> ・経済的に困窮する学生を支援するため、国や都道府県、他自治体の制度について調査を行い、草加市の制度との比較しながら、我が国における奨学金制度の流れを把握しました。 					
【貸付金の滞納解消に向けた取組】(総務企画課)					
<ul style="list-style-type: none"> ・公平、公正な貸付制度とするため、長い方で20年以上長期間接触がなかった滞納者などについて居所調査を行い、連絡先を把握しました。その他の滞納者については、電話催告・返済相談等を実施しました。 ・口座振替による返済を推奨しましたが、令和5年度は9人減り、3月末時点で91人が利用するようになりました。 					

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	368,168,982	372,740,443	426,635,000
		一般財源	339,206,118	344,760,430	389,812,000
		特定財源	28,962,864	27,980,013	36,823,000
個別 事務 事業 名	教育相談充実事業	49,485,671	50,812,714	64,038,000	
	特別支援教育充実事業	84,808,245	94,712,808	120,821,000	
	特別支援教育就学奨励費補助事業(小・中学校)	8,382,404	8,413,196	10,186,000	
	学校就学援助事業(小・中学校)	213,515,070	207,335,330	216,176,000	
	入学準備金・奨学資金貸付事業	11,676,200	11,245,483	15,082,000	
	外国人学校児童生徒保護者補助事業	301,392	220,912	332,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	(1) 生徒指導・教育相談の充実を図り、関係機関と連携した個に応じた支援のもと、不登校児童生徒の減少を目指します。 (2) 経済的理由により高等学校などへの修学が困難な方へ、教育の機会均等や有能な人材の育成を図っていくため、貸付人数の維持又は拡大を図っていきます。 (3) 入学準備金・奨学資金返済率(現年度)を向上させることで、将来の貸付金の原資を確保し、支援の必要な方に確実に入学準備金などを貸付することを目指します。		(1) ①1.63% ②6.82%	(1) ①0.35% ②2.73%	
	指標名		(2)	(2)	
	(1) 不登校児童生徒(年間30日以上)の割合 ①小学校 ②中学校		35人	45人	
	(2) 入学準備金・奨学資金貸付人数 (新規・継続) (3) 入学準備金・奨学資金返済率 (現年度)		(3) 92.0%	(3) 95%	
所属評価・達成状況					
(1) 臨床心理士による個別相談や各校への巡回相談、学校適応指導教室「ふれあい教室」による不登校児童生徒の支援の充実を図ってきました。またスクールソーシャルワーカーが関係機関と連携を深め、課題のある家庭への支援を行いました。しかし、不登校児童生徒の増加には歯止めがかからず、更なる対策の検討が必要です。 (2) 国や県などの奨学資金制度の充実が図られていることなどにより、目標値を下回ったとも思われます。 (3) 新型コロナウイルスの影響により、滞納者への自宅訪問など積極的な滞納対策を実施できませんでしたが、公平・公正な制度とするため、返済者の経済的事情などを踏まえ、滞納対策を実施します。					
令和5年度点検評価委員の意見等					
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の割合が増加傾向である中で、実数としては中学校の不登校者数が減っているという事は良いことである。 ・小学校では不登校者数が増えているので、正職の教員が不足している現状において、市の予算で退職教員を登用、短時間勤務の職員を登用するなど柔軟な対応を検討してほしい。 ・ヤングケアラーやいじめ、授業についていけなくなるなど様々な原因でそのまま登校できなくなってしまうことがあるため、不登校に関しては小学校から早期に対応すべきである。 ・不登校の原因はいじめだけでなく、学習についていけない、家庭環境により学習ができないなど様々な要因があり、義務教育の間に子どもたちの学習環境を整えることが重要であると思う。こうした児童生徒のためにも、小学校を含めた全ての学校で学習室などの学習の場を整備する必要がある。 ・不登校の児童生徒に対応するための教室が用意できる場合、働き方が柔軟であれば協力してくれる人材もいると考える。 ・特別支援学級が市内全校に配置され、その種別ごとにきめ細かに支援している。これは草加の優れたところであると感じた。 ・専門性の高い特別支援教育指導員によるサポートは堅持してほしい。 ・特別支援教室児童担当指導員も専門性の高いもので非常に重要であり、堅持してほしい。 ・奨学金については、幅広い人が利用できるよう取り組んでほしい。 ・国・県・市それぞれで奨学金制度があるため、周知の方法を工夫して、本当に困っている人に各制度を知ってもらうよう取り組んでほしい。 ・奨学金制度について「知人から教えてもらった」、「調べたらまたま知ることができた」などの声もあり、情報を得る機会が少ないと考えられる。そのため、多方面から手厚く何層にも奨学金制度を周知することが大事であると考えられる。 ・一般的に奨学金について、返済の必要がない給付型が増えることによって、その分、返済型の奨学金の枠が減ってしまうということがあるかもしれない。ただ単に給付型の奨学金の枠を増やすだけでなく、限られた予算の中で幅広い人に奨学金制度の利用がいきわたることが重要であるため、給付型と返済型の奨学金それぞれのバランスが大事である。 ・奨学金の申請だけでなく、それに関する相談窓口もあると良い。人によってどの制度を活用することが最善であるかなど個人では判断が難しいため、専用の相談窓口や相談会の実施などワンクッションをあると、より良い制度利用につながる。 ・子どもが進路をあきらめなくてもすむように、4月～夏休みの早い時期にかけて、草加市、草加市以外の奨学金制度の周知強化や相談会を実施することを検討してほしい。 					

【教育相談の充実】【評価B】

○臨床心理士等による相談で悩みを抱える児童生徒や保護者に寄り添い、個々の状況に応じた支援の充実が図られました。
○全中学校区に派遣したスクールソーシャルワーカーによる家庭訪問やケース会議、こども家庭課及び児童相談所等の関係諸機関との連携を通して、不登校・児童虐待等へのきめ細やかな対応の充実が図られました。
○ふれあい教室を活用している児童生徒の自立に向けた取組を充実させ、学校復帰や進学への意欲化を図ることだけでなく、学校以外の居場所としての活用ができました。
△不登校が急激に増加しており、学校とこども家庭課及び児童相談所等の関係諸機関とのより一層の充実した協力体制の構築とオンラインによる支援体制構築が必要です。

【特別支援教育の充実】【評価B】

○引き続き特別支援学級を全校に設置し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を充実させました。
○就学予定児、在学児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた就学支援について、こども育成支援課等の関係各課や保育園、幼稚園、学校、医療機関等と情報を共有するとともに、保護者への十分な情報提供を行い、適切な教育形態への合意形成に努めました。
○特別支援教室児童担当指導員の増員や、階段昇降車の設置など、個々の教育的ニーズに対応した支援の充実を図りました。
△各研修を充実させることにより、小中学校の全ての教員に対して、一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じた指導力の向上を図る必要があります。

【特別支援教育の就学奨励費の補助】【評価A】

○教育の機会均等の趣旨にのっとり、特別支援教育就学奨励費補助事業を適切に進めることができました。
△学校事務担当者向け奨励費事務Q&A集の内容を充実させるなど、適正な事務執行がなされるよう引き続き周知を図ります。

【埼玉県立かがやき特別支援学校等との連携】【評価B】

○特別支援学校のセンター的機能を効果的に活用し、コーディネーターの専門性を生かし、児童生徒の実態を適切に把握するとともに、特別な支援を必要とする児童生徒の保護者や教職員に対しての相談を実施することで、具体的な支援方法の理解を得ることができました。
△支援籍学習や特別支援学校と近隣小中学校との交流をより一層推進し、特別支援教育に対する理解を深めることが必要です。

【一人ひとりに応じた就学援助の充実】【評価B】

○教育委員会と学校が緊密に連携し、申請書等を家庭に配布し、保護者へ就学援助制度の周知を図り、援助を必要としている世帯に迅速かつ円滑に援助を行うことができました。
○案内の配付、広報そうかへの掲載やホームページの更新を行い、就学援助制度について周知を図ることができました。
○小学校新1年生は入学準備金の案内を就学時健康診断受診時に配布したり、ホームページに掲載したりする等の方法で周知が図られました。
△システムが導入されていないため、就学援助事務が手作業であることや他課との連携がスムーズにできないことがあり、ミスの防止に大きな労力をかけています。

【入学準備金及び奨学資金貸付制度の見直し】【評価B】

○国等を含め他自治体の制度について調査したところ、県内で給付型の制度を導入している自治体はわずかですが、給付型は学生の将来の経済的、精神的な負担を和らげ、経済的に困窮する学生の支援につながる制度であると改めて認識しました。また、国や県の制度が充実していますが、申請者に市の制度を利用する理由を聞いたところ、他の制度の申請期間に間に合わなかった、無利子による貸付であるためなど、市の制度の存在意義を確認しました。
△給付型を含め、草加っ子の次のステップを支援する制度とするなど、厳しい財政事情の中、確保した予算を効率的、効果的に使えるよう、国、県や自治体の動向などを注視しつつ、利用者のニーズにあった支援制度を検討する必要があります。

【貸付金の滞納解消に向けた取組】【評価B】

○令和6年3月に文書催告を実施し、納付や納付相談を促しました。
○滞納については、返済者の生活状況に配慮しつつ、定期的に接触している長期滞納者を中心に積極的に返済勧奨をして、大部分の滞納者から定期的な返済を受けました。
△物価高騰に賃金の上昇が追い付かない状況が続いていることから、滞納が生じた可能性があります。返済者の生活状況等を伺いながら、返済猶予の制度も活用しつつ、丁寧な返済相談を行っていく必要があります。

成果
○と課題
△

【教育相談の充実】

- ・学校支援指導員による学校への訪問支援及び電話や面談による相談活動を増やし学校支援を充実させるとともに、ふれあい教室におけるオンラインを活用した学びや相談の場を構築することで不登校児童への支援の充実を図ります。
- ・全中学校区に派遣しているスクールソーシャルワーカー11名が、不登校や児童虐待等の解決のためにより効果的に活動できるよう、連絡協議会の内容を充実させ、子ども家庭課及び児童相談所等の関係諸機関と連携を深め、支援内容・支援方法を工夫・改善します。
- ・学校に配置されているさわやか相談員やスクールカウンセラー等を有効活用し、学校と情報を共有し共通理解を図り、同一歩調で支援できる体制づくりをさらに進めます。
- ・ふれあい教室での支援を強化し、オンラインや学生等を活用し、児童生徒のニーズに応じた支援の充実を図ります。

【特別支援教育の充実】

- ・児童生徒や保護者等、相談者に寄り添い、適切な情報提供を行い、丁寧な相談活動を推進していきます。
- ・保育園や幼稚園、子育て支援センター内児童発達支援センター支所等の関係諸機関との連携のもと、早期からの教育相談、就学支援、就学後の個に応じた支援等を貫けて行うとともに、一人ひとりの教育的ニーズに応じ、児童生徒が可能性を最大限に発揮できる環境整備、支援体制を構築させることで、児童生徒一人ひとりの自立と社会参加に向けた支援を継続的にいきます。
- ・各研修を充実させることにより、すべての子どもたちが多様な存在であることへの理解を深め、児童生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすため、特別支援教育に関する基礎的な知識及び合理的配慮に対する理解等の向上を図ります。

【特別支援教育の就学奨励費の補助】

- ・特別支援教育就学奨励費補助事業を適切に進めます。

【埼玉県立かがやき特別支援学校等との連携】

- ・特別支援学校とその教育内容に対する理解を深め、引き続き連携強化を図ります。また、市内の特別支援教育担当教員の指導力向上を目指し、実践指導に触れる機会の設定に努めます。
- ・草加かがやき特別支援学校、越谷特別支援学校、特別支援学校大宮ろう学園等との交流や支援籍学習での連携等を進め、各校及び保護者への理解を深めるとともに包括的な支援が図れるよう努めます。

【一人ひとりに応じた就学援助の充実】

- ・現在手作業で行っている就学援助事務を、入力ミス等の根絶を図るため、また今後多様化する可能性のある支給方法に対応するため、学齢簿の標準化の動向を注視しつつ、就学援助システム導入の検討を進めます。
- ・新入学児童生徒学用品費について、国の基準変更に合わせて就学援助費の補正について、近隣市町等の状況を確認し、金額や支給時期について検討を進めます。
- ・就学援助を必要としている世帯に、迅速・円滑に援助が行えるよう、引き続き全家庭に就学援助制度の周知を図ります。
- ・入学準備金の事前支給の周知をより一層図ります。

【入学準備金及び奨学資金貸付制度の見直し】

- ・県・国等の制度について把握しつつ、引き続き、他自治体の動向を調査し、市の将来を担う子どもたちへの支援にふさわしい制度を検討していきます。

【貸付金の滞納解消に向けた取組】

- ・文書催告に対して、滞納者から連絡があった際に納付相談等を行います。
- ・家計急変などにより返済に困る方には、返済猶予の制度も活用しつつ、丁寧な滞納相談を行っていきます。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	1	目指す「草加っ子」(15歳の姿)を育む 幼保小中を一貫した教育の推進	指導課 教育支援室 学務課	B
	施策	1-6	「草加っ子」の学びを支える指導力の向上		

市委嘱研究を計画的に進めるとともに、指導訪問や要請訪問等において適切な指導・支援を行い、教員の指導力の向上を図ります。また、教員研修においても、指導技術を高める内容に重点を置き、指導力のある教員を育成します。

さらに、特別な教育的支援を必要とする児童生徒も含め、全ての児童生徒が授業に取り組みやすくするために、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業の改善を進めます。

児童生徒を取り巻く環境の変化に伴い、学校だけでは解決が難しくなっている不登校対応等についての研修を充実させていきます。また、特別支援学級や通級指導教室の担当者に対する研修を充実させるとともに、通常学級に在籍している障がいがあると思われる児童生徒を適切に支援するための研修を充実させていきます。

教職員の業務の合理化・効率化を図り、一人ひとりの子どもと向き合う時間を確保できる環境づくりを進めます。

【「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の徹底】(指導課)

- 市内32校の指導訪問で各教科等の公開授業・研究授業を実施し、基礎・基本の着実な定着と学力向上に向けた授業改善について具体的に指導しました。
- 全体会等で「指導の基」を活用して、「草加っ子の基礎・基本」及び「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の第2条と第3条、これらを意図的に仕組むための第1条の徹底について指導し、授業改善を図りました。

【指導訪問の充実】(指導課)

- 市内32校の指導訪問で各教科等の公開授業・研究授業を実施し、基礎・基本の着実な定着と学力向上に向けた授業改善について具体的に指導しました。

【教職員研修の充実】(指導課)

- 新採用教員研修、3年次教員研修、5年経験者研修、キャリア・アップ研修、臨時的用教員・任期付任用教員研修を実施し、教員の専門性を高めました。
- 学力向上に向けた「学力向上対策研修会」を2回実施しました。1回目は今年度実施した埼玉県学力・学習状況調査の分析結果と活用法(全体及び各教科ごとに実施)、2回目は草加市学力・学習状況調査のWeb評価支援システムの活用法についての説明を行い、各校の学力向上に向けた取組を支援しました。
- 小中学校情報教育推進委員会、小中学校国際理解教育推進委員会、小中学校児童生徒体力向上推進委員会等を開催し、教科等の教員の専門性や指導技術の向上を図りました。

【市委嘱研究の充実】(指導課)

- 両新田中学校区、川柳中学校区、花栗中学校区の研究発表会及び新田中学校区の読書活動実践発表を支援し、その取組を市内全小中学校に周知することができました。
- 「生きるカプラン」「元気・夢プラン」「読書活動推進プラン」の各校の研究の支援を行いました。
- 学力向上推進校に対して、年間6回訪問し、学力向上に向けての指導助言を行いました。

【ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・環境づくりの充実】(指導課)

- ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・環境づくりについて、指導訪問や要請訪問等において指導しました。

【教育相談及び特別支援教育に係る研修の充実】(教育支援室)

- 一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じた指導力の向上を図るため、特別支援教育に係る研修を工夫して実施しました。(草加市特別支援教育研修会を年間6回、特別支援学級新担任者実務研修会を年間5回実施)また、対象者以外の教員の研修への積極的な参加を促し、研修会実施後の動画視聴等を可能にする等、研修機会を充実しました。
- 埼玉県スクールソーシャルワーカーを講師に教育相談研修会をオンラインで実施しました。

【教職員の働き方改革】(学務課)

- 埼玉県の方針を踏まえ改定した「草加市立小中学校における働き方改革基本方針」を踏まえ、教職員の負担軽減に向けて具体的に取り組むことができました。
- 負担軽減検討委員会を年2回開催しました。「草加市立小中学校における働き方改革基本方針」の改定後の状況について意見交換し、令和5年度当初に行った学校における電話対応時間の変更について成果を協議しました。
- 全校で「定時退勤推奨ウィーク」に取り組みました。定時退勤時刻を意識した働き方を進めることができました。
- スクール・サポート・スタッフを、昨年に引き続き4校(小3校、中1校)に配置しました。
- 勤務時間外の在校時間が長時間となる教職員は、校長との面談による業務改善を図り、自己チェックシートを活用して、産業医との面談を実施しました。

活動内容実績

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	14,671,649	14,336,424	15,677,000
		一般財源	14,571,649	14,236,424	15,677,000
		特定財源	100,000	100,000	0
個別 事務 事業 名	教職員研修推進事業	7,941,649	7,856,424	9,607,000	
	草加っ子「生き生きプラン」推進事業	6,730,000	6,480,000	6,070,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	(1) 学習内容がわかる授業を行うため、教員の指導力の向上を図ります。 (2) 「草加市立小中学校における働き方改革基本方針」に基づき、働き方改革を推進し、教職員の負担軽減を図ります。 (3) 特別支援教育に対する正しい理解と指導力、専門性の向上を図り、特別支援教育の推進を目指します。		(1)	(1)	
	指標名		①小学校 国語84.1% 算数77.0%	①小学校 国語85% 算数85%	
	(1) 全国学力・学習状況調査の質問紙調査における「国語の授業の内容はよく分かりますか」「算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合の平均 ①小学校 国語 算数 ②中学校 国語 数学		②中学校 国語80.0% 数学73.3%	②中学校 国語75% 数学70%	
	(2) 在校等時間の超過勤務が「一月について45時間、一年について360時間」を超えた教職員の割合 ①小学校 一月45時間超 ②中学校 一月45時間超 ③小学校 一年360時間超 ④中学校 一年360時間超		(2) ①31.6% ②42.5% ③58.5% ④60.1%	(2) ① 0% ② 0% ③ 0% ④ 0%	
	(3) インクルーシブ教育システムの構築に向けた研修会を受講し、特別支援教育の重要性について理解し、指導にいかしている教職員の割合 ①小学校 ②中学校		(3) ①91.4% ②81.8%	(3) ①100% ②100%	
	所属評価・達成状況				
	(1) 中学校は目標値に達しましたが、小学校は目標値に達しませんでした。「草加っ子の学びを支える授業の5か条チェックリスト」の活用を指導訪問等において周知し、教員が児童生徒一人ひとりの振り返りを見届け、日々の授業改善を図ることについて、各校に指導を行います。 (2) 月45時間超と年間360時間超の超過勤務の教職員の割合が、小中学校ともに減少しました。これからもさらなる働き方改革を推進し、教職員の負担軽減ができるよう指導・助言を行います。 (3) オンライン研修を活用し、対象者の枠を広げて研修会を実施しましたが、目標達成には至りませんでした。児童生徒一人ひとりの状況に応じた指導を行うことは必須であることから、未受講者を対象とした研修を行う必要があると考えます。				
	令和5年度点検評価委員の意見等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級の担任の先生の業務は専門性が高いため、今後も、ある程度経験がある方が任用されることを望む。 ・教員に対してヤングケアラーに関する研修をしていることが現代的で評価できる。研修内容を動画配信で復習できることも有効であると思う。 ・産休・育休を取得する教員が男女であり、計画的に準備をしても代わりがすぐに見つからないなどの課題がある中で、色々努力していると感じた。 ・人材不足の中で、若い力だけでなく、経験のある方の力も重要であると考えられるため、ペーパーティーチャーの活躍できる場の周知や環境整備を強化する必要があると思う。 ・ペーパーティーチャーについて、何年も現場を離れていたり、時代や子どもたち自身も変化しているということもあるので、例えば自動車運転免許でいうペーパードライバー講習のようなものを用意するなど、受け入れ体制が整えば担い手も出てくると思う。 ・ペーパーティーチャーについて、学校へ授業風景を見に行くことができたり、学校応援団として受入れるといった取組は、関係課で連携がとれていると評価できる。 ・ペーパーティーチャーとしてできることがあるのであれば、教育に携わりたいという人が潜在的にいると思われるため、市で積極的にパンフレットやチラシを用いて、活躍できる場の案内をしていく必要があると思う。 ・働き方改革として取り組んでいるペーパーレス化について、時間、経費の面でもメリットがあるため、できる範囲で少しずつ推進してほしい。 ・インクルーシブ教育について、教員が理解して指導に活かすには、クラスの生徒数が少なければ少ないほど効果的だと考えられる。効果的に活かせるよう取組を検討してほしい。 ・ユニバーサルデザインと合理的配慮は逆ベクトルの視点であるが、両方の視点を取り入れた授業を実施してほしい。 				

【「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の徹底】〔評価B〕

○指導訪問等において「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の指導を重点的に行い、各校の日々の授業改善をすることで、児童生徒の学力の定着が見られました。

△「草加っ子の学びを支える授業の5か条」について、児童生徒自身の必要感を高める必要があります。

【指導訪問の充実】〔評価B〕

○分科会の指導において、タブレット端末等を活用するなど、視覚化、共有化を図ることができ、具体的な指導を行うことができました。

△授業における効果的なICT活用の充実を図る必要があります。

【教職員研修の充実】〔評価B〕

○指導訪問を始め様々な研修会を実施し、教職員研修の充実を図りました。

○「学力向上対策研修会」では、学校の教育力の向上、教職員の指導力の向上を図りました。

○各種の推進委員会等を開催することで、教職員の専門性や指導技術の向上につなげました。

△引き続き、教職員の専門性を高め、授業改善・授業力の向上を図る必要があります。

【市委嘱研究の充実】〔評価B〕

○「生きるカプラン」9校(両新田小、新里小、両新田中、八幡小、青柳小、川柳中、花栗南小、小山小、花栗中)と「読書活動推進プラン」3校(新田中、新田小、長栄小)がWeb会議システムを活用し、研究発表及び実践発表を行い、その成果を市内各校へ広めました。

○学力向上推進校訪問を年6回行い、学力向上に係る現状把握及び今後の学力向上の取組について検討し、具体的な助言及び支援を行いました。

△現在の研究委嘱が令和5・6年度で全中学校区終了するため、令和6年度以降の新たな研究委嘱について検討する必要があります。

【ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・環境づくりの充実】〔評価B〕

○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業・環境づくりについて、指導訪問や要請訪問等を通して、児童生徒一人ひとりにとって学びやすい環境となるよう指導することができました。

△学校全体において、全ての児童生徒にとって分かりやすい授業づくりを心がけることができるよう、学習環境の整備、授業改善について、引き続き学校訪問等を通して見届け、指導するとともに、タブレット端末や大型提示装置を使用する際の留意点についても指導する必要があります。

【教育相談及び特別支援教育に係る研修の充実】〔評価B〕

○研修内容を工夫し、特別支援教育に関する基礎的な知識及び合理的な配慮に対する理解等の向上に努めました。

○埼玉県スクールソーシャルワーカーを指導者として研修を実施し、児童生徒への適切な支援についての理解に努めました。

△さらに研修内容等を工夫し、市立小中学校の全ての教員に対して、一人ひとりの児童生徒の教育的ニーズに応じた指導力の向上を図る必要があります。

△不登校、児童虐待等についての研修の充実のため、ICTの活用等、研修方法を工夫していく必要があります。オンラインを活用した相談やふれあい教室での活用について検討が必要です。

【教職員の働き方改革】〔評価B〕

○令和5年度は、令和4年度に改定した「草加市立小中学校における働き方基本方針」の実施2年目でした。教職員の負担軽減に向けて、草加市教育委員会として具体的な取組、学校として具体的な取組を提示、実施することができました。

○令和5年度も産業医との面談を行い、校長との面談報告を提出させることで意識が高まりました。心身の健康の保持、過労による事故の防止や学校への指導などを行うことができました。

○教職員の働き方改革の一つとして電話対応時間の短縮を令和5年4月1日から実施しました。

○「定時退勤推奨ウィーク」を実施しました。

△働き方改革への意識は高まっていますが、精神的な負担が出ている面が見られます。病気休暇や病気休職の教職員が依然多く見られます。

△在校等時間が月80時間を超過する教職員は、管理職による面談を実施しましたが、同じ教職員が複数回80時間を超えることもありました。

成果
○と課題
△

【「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の徹底】

- ・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の趣旨や「草加っ子の学びを支える授業の5か条チェックリスト」の改訂について周知するとともに、1単位時間ごとだけでなく、単元計画への位置付けという観点からも授業改善を図るよう指導します。
- ・「草加っ子の学びを支える授業の5か条」の取組自体が目的化しないよう、児童生徒の「必要感を高める」視点を大切にし、実態や変容に寄り添った指導の充実を図ります。

【指導訪問の充実】

- ・教科領域別の授業づくりのポイントや学習過程での振り返りにおける児童生徒の「伸び」を視点とした授業改善の在り方などを指導し、教員の指導力を向上をさせるとともに、各校の学力向上を図ります。
- ・指導訪問を通じて、授業における効果的なICT活用の充実を図ります。
- ・Web会議システムも活用しながら、全体会・分科会における指導を充実させ、教職員の指導力の向上を図ります。

【教職員研修の充実】

- ・市独自の新採用教員研修、3年次教員研修、5年経験者研修、キャリア・アップ研修、臨時的任用教員・任期付任用教員研修について、研修内容を精選し、Web会議システムを活用しながら実施し、教員の専門性を高めます。
- ・学力向上対策研修会や指導主事・学力向上担当指導員訪問を実施し、児童生徒の学力向上に向け、教員の指導力向上を図ります。

【市委嘱研究の充実】

- ・「生きるカブラン」を5中学校区15校と「学びの充実プラン」を3校に委嘱するとともに、令和5・6年度委嘱校9校による「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」「自己肯定感・自己有用感を育む授業づくり」の研究発表会を開催できるよう支援し、市内の全小中学校に取組を周知します。
- ・令和6・7年度委嘱校6校による「自己肯定感・自己有用感・他者理解を育む授業づくり」「主体的・対話的で深い学びを実現するための授業づくり」の研究委嘱について支援します。

【ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりに向けた研修の充実】

- ・「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり・環境づくり研修会」を講師を招聘して実施します。
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりや学習環境づくりを推進する上での重点について、指導訪問や要請訪問等を通して指導します。

【教育相談及び特別支援教育に係る研修の充実】

- ・各学校における特別支援教育に関する校内研修が年間計画へ位置付けられるようにするとともに、各研修を充実させることにより、すべての子どもたちが多様な存在であることへの理解を深め、児童生徒一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばせるように、特別支援教育に関する基礎的な知識及び合理的配慮に対する理解等の向上を図ります。
- ・特別支援教育指導員、臨床心理士等を派遣し、訪問指導や校内研修等を通して、校内研修体制の支援を図ります。
- ・さわやか相談員、スクールソーシャルワーカーの研修を関係諸機関と連携した具体性のある研修の実施を図ります。
- ・オンラインを活用した不登校支援として、オンラインによる相談やふれあい教室でのオンライン活用を実施します。

【教職員の働き方改革】

- ・ICカードにより勤務時間の実態を把握し、教職員の業務量の適切な管理を行い、在校等時間の超過勤務の上限が「原則①月45時間以内、②年360時間以内」になるように取り組みます。
- ・令和6年度は前年度に引き続き、市内小学校3校、中学校1校へのスクール・サポート・スタッフの配置を行い、負担軽減の取組を市内に広めます。令和7年度以降は配置校の拡大を目指し、財政と連携を図っていきます。
- ・「草加市立小中学校における働き方改革基本方針」で示した内容を実行し、教育の質の維持向上を図ります。
- ・勤務時間外の在校等時間が長時間となる教職員の産業医との面談を実施します。
- ・休暇制度の周知及び休暇の取得促進等により教職員の働き方への意識改革を図ります。
- ・草加市独自の負担軽減検討策を集め、負担軽減検討委員会で協議を行い、各校に情報提供を行うことで、負担軽減策の共有を図ります。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	2	学校・家庭・地域の連携・協働の推進	学務課 指導課 子ども教育連携推進室	B
	施策	2-1	地域とともにある学校づくりの推進		

よりよい学校運営や、子どもたちの学びや体験活動の充実等のために必要な支援に関する協議を学校運営協議会で行い、地域とともにある学校づくりを推進します。また、学校運営協議会と学校を支援する組織である学校応援団が両輪となり、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

学校応援団の活動を通じ、学校が積極的に家庭や地域に働きかけ、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進します。

学校を含めた地域社会の中で、土曜日や放課後などにおける子どもたちの学習活動や体験活動の充実を図るなど、地域との交流・連携をいかした取組を進めるとともに、交流・連携しやすい環境づくりを推進し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動に取り組みます。

豊かな地域資源を活用し、草加の歴史や文化に触れることができる体験学習等を計画的・系統的に進め、草加に愛着や誇りを持てるよう、ふるさと草加学習の充実を図ります。

活動内容実績	<p>【学校運営協議会の充実】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全小中学校がコミュニティ・スクールとして、学校・家庭・地域が目標を共有し、連携・協働を図り、地域とともにある学校づくりに取り組みました。学校運営協議会において、委員の方々に、学校運営や学校が必要としている支援について協議していただくとともに、その内容をもとに地域と学校が協働することにより、教育活動を充実させました。 ・コミュニティ・スクールの運営、学校地域共同活動の推進に実績のある市から講師を招いて講演をいただき、演習も取り入れた研修会を実施して、学校運営協議会委員と事務局職員、学校応援コーディネーターの共通理解と実践力向上を図りました。 <p>【学校応援団の充実】(子ども教育連携推進室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内全小中学校が作成した学校応援団名簿をもとに、草加市市民活動災害補償制度が活用できるよう整備しました。 ・各校の学校応援コーディネーターを対象に、学校応援コーディネーター連絡協議会を開催し、コーディネーターの役割について理解を深め、各校における学校応援団活動の成果と課題について協議を行いました。 <p>【児童生徒の安全管理の充実】(子ども教育連携推進室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小学校へスクールガード・リーダーを1名ずつ配置し、児童の登下校時の安全を確保しました。 ・スクールガード養成講習会を開催し、全小学校のスクールガード・リーダーが見守り活動の実践方法、注意事項について共通理解を図りました。 ・「こどもひなんじょ」設置箇所拡大に向けて協力者募集チラシを作成し、小学校へ掲示や配布の協力を依頼しました <p>【部活動指導員・部活動外部指導者の派遣】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動に対する指導体制の充実を図るために、部活動指導員を6名配置しました。 ・中学校に部活動外部指導者を54名派遣し、生徒の活動を支援しました。 <p>【学校・家庭・地域が一体となった防災教育の推進】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全教育担当教員を対象として、Web会議システムを活用し、防災教育の研修会を実施し、ハザードマップ及び水害啓発動画を活用した防災学習について、指導・助言を行いました。 ・避難所運営市民防災訓練について、町会連合会と市危機管理課、各校と連携を図り、ほぼ全ての小中学校にて実施されました。 <p>【ふるさと草加学習の推進】(子ども教育連携推進室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学ぼう！ふるさと草加」を新採用教員や市外からの転入教員へ配布しました。 ・目指す「草加っ子」を育む授業づくり研修会や標準カリキュラム研修会等を通して、ふるさと草加学習に関する理解と活用を促しました。 ・各小中学校から提出された、ふるさと草加学習に関する実施計画をもとに、子ども教育連絡協議会等の機会に情報交換を行いました。進捗状況を確認し、学校の実態に合わせたふるさと草加学習の取組について指導・助言を行いました。 ・市内のふるさと草加学習の実践状況について把握し、好事例や成果・課題等を周知しました。 <p>【土曜日等の教育活動の充実】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日等の教育活動検討委員会を年間2回実施し、学校・保護者・地域(学校開放団体)の意見をもとに、望ましい土曜日等の教育活動について検討しました。 ・令和6年度のサタデースクールについての保護者・地域向け通知を作成しました。全小中学校及び市内公共施設に配布し、周知しました。 ・土曜日等の教育活動が充実するよう、土曜日等の教育活動についてのパンフレットを、学校を通じて配布しました。 <p>【学校経営の充実】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長会議(12回)、教頭会議(5回)を実施し校長及び教頭に指導及び指示伝達を行いました。また、必要に応じて臨時校長会議を実施し、不祥事根絶等への対応について学校を支援しました。 ・教育長学校訪問(32校×2回)、南部教育事務所人事学事担当学校訪問(32校)を実施し、各学校の実態を把握し、課題に対する指導を行いました。 <p>【学校評価制度の活用】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校が自校の教育活動及び、学校運営の状況について評価した結果を市のホームページで公表し、広く周知を図りました。 ・草加市立小中学校32校から提出された評価結果について分析を行い、今年度の評価の特徴をつかみ、地域とともにある学校づくりの推進に役立てました。 <p>【小中学校通学区域審議会の開催】(学務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画通り第1回～4回の審議会をすべて開催しました。 ・通学安全上の学校選択の在り方、及び、学校大規模化による学校選択の在り方について、活発な審議を進め、答申をいただくことができました。
--------	--

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	10,899,312	11,981,210	15,133,000
		一般財源	8,719,312	9,801,210	12,488,000
		特定財源	2,180,000	2,180,000	2,645,000
個別 事務 事業 名	学校管理運営事業(小・中学校)	3,687,551	3,648,999	4,632,000	
	学校運営・就学事務事業	7,211,761	8,332,211	10,501,000	
	学校応援団推進事業	0	0	0	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	(1) より良い学校づくりに向けた改善意見や要望などを基に改善を進め、より高い評価を受けることを目指します。		(1) 52.9%	(1) 55%	
	(2) 学校応援団の各校における活動の充実及び発展を目指します。				
	指標名		(2) 4,796人	(2) 6,500人	
	(1) 学校評価におけるA評価の割合				
	(2) 学校応援団の人数				
所属評価・達成状況					
<p>(1) 全体としては、2.9%の増加となりました。教科指導について、昨年度のA評価の割合が28.1%から今年度53.1%へと増加したことが一つの要因と考えられます。また小学校の教科担任制やタブレットを活用した授業が確立され、効率的な協働学習の活性化も評価の要因と考えられます。</p> <p>(2) 前年度から大幅に登録者数が減少しました。PTA組織と学校応援団を区別することで、学校応援団の純人数が減少した学校が見られました。今後も各校や自治会への周知を通して、保護者や地域の方々に学校運営にご協力いただけるよう取り組みます。</p>					
令和5年度点検評価委員の意見等					
<ul style="list-style-type: none"> ・学校応援団について、コロナ禍で活動できる場面が限られてきたが、少しずつ活動機会が増えてきた。参加者が安心して活動することができるよう、草加市市民活動災害補償制度を積極的に周知するなど、参加者の増加につながる取組を検討してほしい。 ・スクールガード・リーダーを配置した児童の登下校時の安全の確保については、過去の事故事例等に基づいた登下校の見守りを行うと効果的であると思う。 ・教科担任制(複数担任制)は様々な面で働き方改革につながるがあると思う。 ・保護者対応について、複数人で対応することも、働き方改革につながると思う。 ・サタデースクールは、実施当初の目的の時間の確保など十分役割を果たした。教育を取り巻く環境等も変化しており、働き方改革もあるため、見直しをすべき時期にきているのではないかと思う。発展的に解消することを積極的に検討してほしい。教職員が出勤しても、直近で休みが取れないことは課題である。例えば、6月は祝日がないので、週6日勤務が続くことは、避けるべきである。 ・土曜日に教育活動を行うことは、必要に応じて学校が判断して実施すればよいが、現行の運動会のようにすぐに振替休日を取れるようにする必要がある。 ・時代に合った教員の働き方を推進してほしい。 					

【学校運営協議会の充実】〔評価B〕

○学校運営協議会で事務局から学習状況調査等の結果を報告し、児童生徒の学習の様子等について、実際に授業の様子を参観いただくなどして情報提供を行ったうえで、ご意見をいただいたり、協力できることはないか検討したりするなどし、協議を深めることができました。

○研修会で行った演習をもとに熟議を取り入れ、その様子を公開したいなどの意見が出るなど、研修会の実施により、協議会運営に一定の成果をあげることができました。

△学校運営協議会委員と事務局職員、他の学校関係者がよりよい共通理解のうえでコミュニティスクールとしての学校をより充実させられるよう、さらなる支援を行う必要があります。

【学校応援団の充実】〔評価B〕

○学校応援コーディネーター連絡協議会を開催し、実施後のアンケートでは、回答者の100%の方から「協議会で得られた意見や情報は、これからの学校応援団活動に役立つ」という回答が得られました。

△学校応援団活動の充実に向けて、学校応援コーディネーターの人材確保、効果的な活用について検討していく必要があります。

△学校運営協議会と学校応援団が両輪となった地域とともにある学校づくりを推進させる必要があります。

【児童生徒の安全管理の充実】〔評価A〕

○全小学校にスクールガード・リーダーを配置し、毎月平均18回程度の見守り活動を実施できました。

△「こどもひなんじょ」の設置箇所をより一層増やすため、保護者や地域への周知を進めていく必要があります。

【部活動指導員・部活動外部指導者の派遣】〔評価B〕

○部活動指導員6名と部活動外部指導者54名が指導を行いました。

○関東大会に6校、全国大会に4校の生徒が出場しました。

△部活動指導員の増員も含め、配置について整備する必要があります。

△休日部活動の地域移行に向け、今後の取組について検討する必要があります。

【学校・家庭・地域が一体となった防災教育の推進】〔評価B〕

○防災教育研修会においてハザードマップ及び水害啓発動画を活用した授業等の解説を行い、防災学習についての協議を行うことを通して、防災意識を高めることができました。

○避難所運営市民防災訓練について、関係課と連携し、多くの小中学校での実施を通して、児童生徒の災害時の対応についての意識を高めることができました。

△避難所運営市民防災訓練について、地域との連携を強め、児童生徒がさらに防災意識の高揚を図ることで、大規模災害時に避難所運営の力になるとともに、地域の一員としての自覚をより養うことができるよう検討する必要があります。

【ふるさと草加学習の推進】〔評価B〕

○目指す「草加っ子」を育む授業づくり研修会で、ふるさと学習の教育的効果や、児童生徒が地域活動へ参加するためのアイデアについて演習等を通して説明し、実践力の向上を図ることができました。

○ふるさと草加学習の充実に向けて、各校の取組状況を踏まえた指導・助言を行うことができました。

△各小中学校へ「学ぼう！ふるさと草加」の活用を促し、効果的な活用方法を市内に周知することで、ふるさと草加学習を一層充実させていく必要があります。

△各小中学校が家庭や地域と連携しながらふるさと草加学習に取り組めるよう、保護者向け周知資料の配布や、ホームページを充実させていく必要があります。

【土曜日等の教育活動の充実】〔評価B〕

○土曜日等の教育活動検討委員会では、これまでの活動の成果や課題を踏まえ、今後の取組や児童生徒に関わる外部団体についての情報をまとめることができました。

○草加サタデースクールの実施回数の変更にともない、学校や地域、保護者からの情報をまとめることができました。

△地域人材を積極的に活用した授業の実施を始め、家庭・地域と、一体となった教育活動を推進する必要があります。

【学校経営の充実】〔評価B〕

○校長会議、教頭会議及び教育長学校訪問、南部教育事務所人事学事担当学校訪問を通じて学校経営の支援や指導を適切に行うことができました。

△学校訪問で明らかになった課題に対して報告を受けた改善策が有効に機能していることを見取るとともに、継続的に学校経営を支援していく必要があります。

【学校評価制度の活用】〔評価B〕

○各学校が前年度の評価を今年度の教育活動に生かすことができました。

○学校ホームページや学校だよりで結果を公表することにより、地域や保護者の関心、理解が深まりました。

△より明確で適正な評価方法について学校に周知し、次年度への改善へつなげる方策を確立する必要があります。

【小中学校通学区域審議会の開催】〔評価B〕

○通学安全上の学校選択の在り方、及び、学校大規模化による学校選択の在り方について、設定されている選択可能地域を見直し、市民の方々に周知徹底して、計画的に見直し審議を進めることができました。審議会から答申をいただくことができました。

△通学安全上の学校選択の在り方、及び、学校大規模化による学校選択の在り方に係る選択可能地域の計画的な見直しについて、市民の方々への周知方法をさらに審議する必要性があります。

【学校運営協議会の充実】

・学校運営協議会の議事録や資料を精選し、各校に情報提供するなどの方策により、学校運営協議会の活動状況を共有できるようにします。また、学校運営協議会と学校応援団が両輪となり、学校・家庭・地域が一体となってより一層教育を推進するために、子ども教育連携推進室とも連携しながら方策を検討します。

【学校応援団の充実】

・学校応援団ボランティアが安心して活動できるよう、草加市市民活動災害補償制度等の環境整備や周知を行います。
・学校応援コーディネーター連絡協議会を開催し、コーディネーターが各校の活動の成果及び課題等を共有することで、さらに活動を充実させられるよう支援します。

【児童生徒の安全管理の充実】

・全小学校へ引き続きスクールガード・リーダーを1人ずつ配置し、児童の安全を確保します。
・スクールガード養成講習会を開催し、児童の安全や道路交通法に留意した見守り活動について学ぶ機会を設けます。
・不審者等から児童生徒を守るため、「こどもひなんじょ」の設置箇所を拡大できるよう、保護者や地域に向けてホームページやチラシ等を用いて周知します。

【部活動指導員・部活動外部指導者の派遣】

・部活動に対する指導体制の充実を図るために、技術指導だけではなく、大会等の引率や生徒指導なども各校の教員と連携して行うことができる部活動指導員を引き続き6人配置します。
・中学校部活動では、競技・技能レベルの向上のため、専門的な指導力を有する地域の外部人材(部活動外部指導者)の協力を受け、部活動の充実を図ります。
・休日の部活動の地域移行に向け、関係各課や関係諸団体と連携を図り、今後の取組について検討します。

【学校・家庭・地域が一体となった防災教育の推進】

・安全教育担当教員対象の防災学習について、関係各課と連携した研修会を実施し、防災意識を高めます。
・ハザードマップ及び水害啓発動画の活用について、各校に指導・助言を行います。
・関係課及び地域と連携し、避難所運営市民防災訓練を通して児童生徒がさらに防災意識の高揚を図ることができるよう検討し、取り組みます。

【ふるさと草加学習の推進】

・学校訪問や研修会等を通して、「学ぼう！ふるさと草加」や草加市幼保小中一貫教育標準カリキュラムへの理解を深め、活用を促します。
・各校のふるさと草加学習に関する年間指導計画や総合的な学習の時間等の全体計画を確認し、必要に応じて指導・助言を行います。
・研究委嘱校を中心に、ふるさと草加学習に関して実際に行われている授業を参観し、実態を詳細に把握するとともに好事例を収集し、市内へ周知します。
・ふるさと草加学習を家庭や地域とも連携しながら各小中学校で取り組めるよう、保護者向けの周知資料の配布や、ホームページの充実を図ります。

【土曜日等の教育活動の充実】

・望ましい土曜日等の教育活動について検討するため、引き続き「土曜日等の教育活動検討委員会」を開催します。
・草加サタデースクールを年間3回、草加寺子屋を年間12回実施します。
・パンフレットを幅広く周知し、学校・家庭・地域が一体となった教育活動を推進するとともに、地域人材の活用を図ります。また、活用状況を把握し、よりよい周知の仕方、活用方法を検討します。

【学校経営の充実】

・校長会議、教頭会議、新任管理職対象の研修会を通して、リーダーシップを発揮し、学校の組織力を向上させ、教職員に的確な指導ができる管理職の育成を図ります。また、学校経営研修会を充実させ、今後、管理職を担う教職員を育成し、学校経営に積極的に参画する取組を推進します。
・学校訪問の際に、前年度の課題、その改善策と改善による成果を確認するなど、積み重ねを意識した視点でよりよい学校管理を支援します。

【学校評価制度の活用】

・各学校の教育活動及び、学校運営の状況について、振り返りを行い、自ら評価し、その結果を公表します。
・より明確で適正な評価方法について事前に周知したり、参考となる資料を配布したりするなど、評価方法の適性化を図り、学校運営の改善に生かせるよう指導・助言します。

【小中学校通学区域審議会の開催】

・新たな議題として、草加市立小中学校の望ましい通学区域の在り方についてを諮問してまいります。
・令和5年度に行った見直しの内容を多くの市民の方々に理解いただけるよう、周知の徹底を行います。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる 「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	2	学校・家庭・地域の連携・協働の推進	子ども教育連携推進室	A
	施策	2-2	家庭教育への支援		

目指す「草加っ子」(15歳の姿)の実現に向け、家庭への周知と子どもへの関わり方、子育てに関する知識等を情報提供するなど、家庭教育の充実を図ります。
 「親の学習」講座については、講師となる埼玉県家庭教育アドバイザーに対し、子ども教育連携推進に関する理念の浸透を図ることで、講師の質の向上と育成に努めるとともに、保護者向けに配布しているリーフレットを十分に活用しながら実施することで、講座の内容を一層充実させます。

活動内容実績	<p>【「親の学習」講座及び子育て講演会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全中学校で、中学生向け「親の学習」講座を開催しました。 市内全小学校で、保護者向け「親の学習」講座を対面で開催しました。 市内全中学校で、保護者向け「親の学習」講座を動画視聴及び動画配信で開催しました。 子育て講演会は、「わが子に自己肯定感・自己有用感を育むために」をテーマとして、対面で開催し、講演を動画配信しました。 <p>【子育てリーフレット及び家庭・学校連携シートの配布】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「もうすぐ1年生」及び「エンジョイ！中学校生活」を保護者へ配布しました。 子育てリーフレットを市内の保護者へ配布し、就学時健康診断等の機会を利用して、活用について案内しました。 教育支援室と連携して家庭・学校連携シートを希望する保護者へ配布し、家庭と小学校が入学児童に関する情報を共有できるようにしました。
--------	--

令和5年度点検評価委員の意見等

・「親の学習」講座については、一般の研修を受けた家庭教育アドバイザーだけでなく、専門知識がある方にも講師を依頼することを検討してほしい。
 ・ヤングケアラーの問題は家庭教育の支援の一環として進めていくと効果的であると思う。
 ・各講座について肯定的な意見が多いのは、これまでの取組の成果であって、努力されていると感じた。
 ・「親の学習」講座は、忙しい保護者にも見てもらえるよう、著作権等に問題がなければ、期間限定ではなく、いつでも見逃し配信が見られるようにすると効果的であると思う。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	1,014,439	1,006,191	1,534,000
		一般財源	1,014,439	1,006,191	1,534,000
		特定財源	0	0	0
個別 事務 事業 名	家庭教育支援事業	1,014,439	1,006,191	1,534,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	(1) これまでの子育てを振り返り、今後の家庭教育について考える機会を提供し、家庭・地域の教育力の向上を目指します。 (2) 将来、大人になるために必要なことを学ぶ機会を提供し、家庭教育の基盤を作ります。		(1) 98.03%	(1) 100%	
	指標名		(2) 94.80%	(2) 95%	
	(1) 「親の学習」講座受講者アンケートで、「今日の講座の中で学んだことを、今後の子育てや子どもとの接し方に積極的にいかす」「いかすよう努力する」と回答した保護者の割合 (2) 「親の学習」講座受講者アンケートで、「講座に参加して、将来大人になることに希望がもてた」と回答した中学生の割合				
	所属評価・達成状況				
(1) 小学校では対面で実施し、中学校では会場での講座動画の視聴及び欠席者等への動画配信により実施しました。今後も家庭・地域の教育力の向上のための講座を工夫して実施します。 (2) 市内全11中学校で講座を実施することができました。今後も内容を工夫しながら、全ての中学校で実施します。					
成果 評価 ○と課題 △	【「親の学習」講座及び子育て講演会の開催】〔評価A〕 ○中学生向け「親の学習」講座を開催し、実施後アンケートでは、94.8%の肯定的な回答が得られました。 ○保護者向け「親の学習」講座を開催し、実施後アンケートでは、98.0%の肯定的な回答が得られました。 ○子育て講演会を開催し、実施後アンケートでは92.1%の肯定的な回答が得られました。 △埼玉県家庭教育アドバイザーの指導力向上を図るため、研修会を充実させる必要があります。 △「親の学習」講座の実施体制を充実させるため、家庭教育アドバイザーを新規に増やしていく必要があります。				
	【子育てリーフレット及び家庭・学校連携シートの配布】〔評価A〕 ○リーフレットを配布したことで、家庭や地域に向けて取組を周知することができました。 △子育てリーフレットの活用について、保護者へ継続的に周知していく必要があります。				
令和6年度以降の取組	【「親の学習」講座及び子育て講演会の開催】 ・「親の学習」講座を担当する埼玉県家庭教育アドバイザーを主な対象とした研修会を実施します。 ・保護者向け「親の学習」講座及び中学生向け「親の学習」講座を実施します。 ・市内関係団体に家庭教育アドバイザー養成研修の受講を案内します。 ・「子育て講演会」を、子どもの発達段階に応じて様々な保護者が参加できるよう、内容を見直しながら実施します。 【子育てリーフレット及び家庭・学校連携シートの配布】 ・子育てリーフレットの内容を見直し、草加市の現状に合った内容に改訂します。 ・リーフレットの内容について、第四次草加市教育振興基本計画や草加市の現状と合致するよう改訂し、周知します。 ・保護者へ子育てリーフレットを配布し、リーフレットの活用を周知します。 ・就学期の子どもをもつ保護者が、不安や悩みを小学校に伝え、家庭と小学校が連携して子どもの円滑な就学に取り組めるよう、家庭・学校連携シートを配布します。				

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる 「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価
	基本目標	3	教育環境の整備・充実	学校施設課 総務企画課	B
	施策	3-1	安全安心な学校教育施設の整備・充実		

草加市公共施設等総合管理計画、草加市学校施設整備基本方針及び学校施設の長寿命化計画(個別施設計画)に基づき、校舎等の大規模改修・トイレ環境の改善等、安全安心な教育環境の整備を環境に配慮しながら効果的・効率的に進めます。
 学校施設は、災害時の避難所としての指定を受けていることから、関係部局との連携を図り、防災機能の向上に取り組みます。
 奥日光自然の家は、施設の老朽化が著しいことから、草加市公共施設等総合管理計画を踏まえ、当面、現有施設の改修などを行いながら維持管理や運営に取り組むとともに、今後の施設の在り方についての検討を進めます。

活動内容実績	【学校施設の維持管理】(学校施設課)
	<ul style="list-style-type: none"> 学校からの依頼等に基づき、小学校103件、中学校73件の修繕を実施しました。 小学校において、外トイレの洋式化修繕を1校、児童用トイレの一部洋式化修繕を1校実施しました。 中学校1校において、給食室トイレの修繕を実施しました。 小学校7件、中学校8件の小規模工事を実施しました。 小学校2校及び中学校3校について、危険ブロック塀の改修工事を実施しました。 西町小学校A棟の空調改修工事、川柳小学校のキュービクル改修工事、瀬崎小学校C棟の特別教室改修工事を実施しました。 花栗中学校B棟について、給食棟を含む西側・北側の屋上・外壁改修工事及び工事監理業務委託を実施しました。
	【校舎等の大規模改修等】(学校施設課)
	<ul style="list-style-type: none"> 栄中学校の改築等について、庁内で検討委員会を設置し、現状の課題の整理を行い、施設整備方針(案)を作成しました。
	【自然の家の管理・運営】(学校施設課)
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染の状況を注視し、5月3日から11月6日まで開所しました。 奥日光自然の家の修繕を18件、小規模工事を2件行いました。
	【共通管理備品の整備】(総務企画課)
	<ul style="list-style-type: none"> カラー拡大機(1校)、担架(1校)、電動中型バトン(1校)、プロジェクター(1校)、屋外用壁掛け大型時計(1校)、ワイヤレスアンブレラセット(1校)、耕運機(1校)を整備しました。 学級増に対応するため、教員用椅子・教卓の備品を整備しました。 老朽化した屋内運動場暗幕(1校)、電話機(3校)、放送機器(1校)、放送設備(3校)、舞台幕(3校)、エアコン(4校)、チャイム(2校)、プロジェクター(1校)、シュレッダー(1校)、講演台(1校)、カラー拡大機(1校)、紅白幕(1校)、ワイヤレスマイク(1校)、プログラムタイマー等(1校)、教職員用机(1校)を更新しました。
	小学校 14校 中学校 7校 合計 21校

令和5年度点検評価委員の意見等

・松江中学校は建設当時から、クーラーが設置された状態で建てられているため、冬はヒーターを使っている。燃料費の高騰などもあり、先生がヒーターの使用頻度を控える、子どもたちがポリタンクを運ぶなど負担があるといった話を聞いたことがあるため、順次エアコンの導入を検討してほしい。

・体育館の空調の導入については、早い段階で取り組んでいただいたことに感謝している。

・小学校の運動場は、大雨が降ると一時的に水が溜まるようになっているが、どうしても側溝にゴミなどが溜まってしまふ。側溝の清掃などを保護者が実施している学校などもあるが、本来は市が対応する案件と感じる。

・空調整備のおかげで体育館は使いやすくなったが、段階的に運動場の整備も進めてほしい。

・栄中学校周辺は、大きく変わってきている地域であるため、栄中学校の建替えについては、関係機関と連携しながら検討を進めてほしい。

・奥日光自然の家のついて、老朽化に伴い、維持管理等に係る費用が年々増加している。原状回復による土地の明け渡しなど様々な課題があるが、解体することや解体した後の代わりなども含めて、早急に検討を進めていく必要があると考える。

・新田小学校は、プールの授業について民間のスイミングスクールを活用しているが、各学校でプールの老朽化が進んでおり、このまま老朽化が進んだ場合、民間のスイミングスクールを活用する学校、修繕をして継続的に使用していく学校、建替えをする学校などを整理し、将来的な見通しを立てて方向性を考えていく必要があると考える。最近始めた学校施設課と指導課の将来的なプールの利用検討については、プールを楽しみにしている子どもたちのためにも引き続き進めてほしい。

・プールの水の止め忘れについて、先生が弁償するという事案が他自治体で発生している。水の止め忘れが発生した場合、職員室等に連絡が行くという機能があれば防げると考える。そもそも、学校の先生が弁償すべきことなのか疑問である。

・保護者・先生より、学校の電話が少ないという声を多く聞く。不登校やいじめなど個別案件については電話で保護者等と連絡せざる得ない機会が多いため、各校外線がつながる電話をもう1台追加で配備することを検討してほしい。

・戸田市では、各生徒タブレットを家に持ち帰らせ、出欠連絡をタブレットで行っている。連絡手段としてのタブレットの活用も検討してほしい。

・各小中学校に大型モニターがあるが、使用されている機会が少ないと感じる。大型モニターと校内放送設備を使用して、複数のクラスで同時に授業を行うことなども可能だと思うため、既存の備品を有効に活用することを検討してほしい。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	3,159,090,928	1,377,715,437	1,306,534,000
		一般財源	1,200,060,375	1,106,596,167	1,048,037,000
		特定財源	1,959,030,553	271,119,270	258,497,000
個別 事務 事業 名	学校施設維持管理事業(小・中学校)	334,992,483	490,937,808	392,131,000	
	学校維持管理運営事業(小・中学校)	567,231,356	537,986,757	559,111,000	
	エアコン設置等事業(小・中学校)	1,768,246,368	279,946,368	279,950,000	
	トイレ環境改善整備事業(小・中学校)	420,739,000	0	0	
	学校管理備品整備事業(小・中学校)	15,074,114	11,506,495	7,175,000	
	奥日光自然の家管理運営事業	52,807,607	57,338,009	68,167,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	屋内運動場にエアコンを設置し、教育環境の向上と避難所としての防災機能の強化を図ります。		100%	100%	
	指標名				
	屋内運動場へのエアコン導入率				
	所属評価・達成状況				
小中学校全32校の屋内運動場へのエアコン設置が完了し、目標を達成することが出来ました。					
評価 と 課 題	【学校施設の維持管理】〔評価B〕 ○小規模工事及び修繕等について、必要に応じて対応しました。 ○小学校2校及び中学校3校の危険ブロック塀の改修工事を予定通り完了しました。 ○西町小学校A棟空調改修工事、川柳小学校キュービクル改修工事、瀬崎小学校特別教室改修工事を予定通り完了しました。 ○花栗中学校B棟外壁・屋上改修(Ⅰ期)工事を予定通り完了しました。 △雨漏りや各種設備等老朽化による不具合が頻発しており、今後、その発生件数は多くなることが予測されます。安全の確保、授業等への支障などを考慮し、必要に応じた対応が必要です。				
	【校舎等の大規模改修等】〔評価A〕 ○栄中学校の改築等について、庁内で検討委員会を設置し、現状の課題の整理を行った上で施設整備方針(案)を作成しました。 △改築に向けて、令和6年度以降、庁内だけでなく学校や関係者との協議を進め、計画を進めていく必要があります。				
	【自然の家の管理・運営】〔評価B〕 ○必要な修繕等を行い、施設の維持管理に努めました。 △施設が建設から長年経過していることを踏まえ、今後も随時修繕を行う必要があります。また、自然教室の実施状況及び一般利用者のニーズや課題を整理する中で、適切な施設運営を行う必要があります。				
令和6年度以降の取組	【共通管理備品の整備】〔評価B〕 ○令和5年度予算計上時に学校から受けた要望については、必要に応じて学校現場を確認した上で、公募による見積り合わせを積極的に実施し、購入を進めました。また、年度途中で要望のあった備品についても内容を精査し、必要と認められたものについて積極的に購入を行い、予算全体で執行率90%以上を目指し、可能な限り学校備品の充実を図りました。 △建設から長年経過している学校においては、突発的に不具合が生じ、放送機器、エアコン、電話設備等の更新が必要となる場合があります。教育環境に支障をきたすことがないよう、予算の確保は必須です。また、特別教室の机・椅子については、更新に大幅な予算を必要とするため、要望等を精査し、計画的に整備していくことが必要です。				
	【学校施設の維持管理】 ・学校からの依頼や要望等に基づき、修繕及び小規模工事等を計画的に実施します。 ・小学校1校、中学校2校の危険ブロック塀等の改修を行います。 ・谷塚小学校屋内運動場他照明器具改修工事、西町小学校屋内運動場床改修工事の執行管理を行います。 ・草加中学校給食室等の空調改修工事、花栗中学校B棟外壁・屋上改修(Ⅱ期)工事、谷塚中学校屋内運動場屋根等改修工事、松江中学校受変電設備改修工事の執行管理を行います。 ・「草加市学校施設等長寿命化計画」に基づいて、改修等を進めてまいります。 ・谷塚小学校特別教室等空調改修工事設計業務委託の執行管理を行います。 ・瀬崎中学校校舎屋内運動場外壁屋上等改修工事設計業務委託の執行管理を行います。 【校舎等の大規模改修等】 ・上位計画である「草加市公共施設等総合管理計画」と整合を図りながら、学校施設の長寿命化計画(個別計画)に基づく施設の修繕や改修を計画的に推進していきます。 ・栄中学校の改築等に向け、基本構想・基本計画等の委託業務を発注するとともに、庁内及び教育委員会において引き続き課題整理・検討等を進めていきます。 【自然の家の管理・運営】 ・児童生徒や一般利用者が安全に、安心して利用できるよう、今後も施設の改修及び修繕を計画的に実施し、維持管理を行ってまいります。 ・草加市奥日光自然の家の在り方等検討委員会での報告書に示された、「今後の自然の家の在り方」をふまえて今後の施設運営について検討していきます。 【共通管理備品の整備】 ・放送機器、エアコン、事務機器、書架及び特別教室等の備品などは老朽化したものが多いことから、学校教育に支障が生じることのないよう、優先順位を付け予算の範囲内で更新していきます。				

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	I	自ら学び、心豊かに、たくましく生きる 「草加っ子」の育成	担当課名	総合評価 B
	基本目標	3	教育環境の整備・充実	指導課 総務企画課	
	施策	3-2	学習環境の整備・充実		

学習指導要領を踏まえ、児童生徒が学習内容を確実に身に付けられるよう、必要な教材教具の整備を進めます。特に、情報教育機器については、コンピュータを始めとする情報機器や情報ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、それらを適切に活用したプログラミング教育を含めた学習活動の充実を図ります。また、学校図書館の蔵書及び環境も充実させます。
特色ある学校経営の推進に向け、各校の教育目標の達成を目指し、積極的な活動ができるように教育環境や学習環境の整備を行い、各校の主体的な取組を支援します。

活動内容実績	<p>【ICTの整備と活用】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内全小中学校の全普通教室に配備した大型提示装置を、授業等で活用しました。 ICT支援員を各校に配置し、年間14回派遣しました。 情報教育推進委員会を開催し、ICTの効果的な活用方法やプログラミング教育について情報共有をしました。 やむを得ず登校できない児童生徒に対し、オンラインによる学習を実施しました。 ネットワーク環境がない家庭に対してモバイルWi-Fiルータを貸し出し、オンラインによる学習に取り組みました。 中学校の職員室、図書室の情報教育の環境を整えました。 ICTのより効果的な活用について、学校訪問等を通して指導・助言しました。 児童生徒の自分の考えを伝える力を高めるため、プレゼンテーションコンテストを実施しました。 <p>【教材教具の整備】(総務企画課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育の授業などの充実のため、バスケットゴール(1校)、バックネット(1校)を整備しました。 学級増に対応するため、オルガン(5校)を整備しました。 理科備品については、重点設備(顕微鏡、気体採取器、人体模型など)に指定されている備品を中心に購入しました。 <p>【特色ある学校経営を推進するための予算の充実】(総務企画課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校配当予算の適正執行を図るため、校長会議(4月13日)において、法令・マニュアル等を遵守した予算執行や、PTA協力費の廃止の要請・指導を行いました。また、配当予算の適正執行に向け、契約に関する事務の適正な遂行を含め、学校予算執行に係る留意事項等について、文書で周知しました。 特色ある学校経営推進事業補助金(クラブ活動・部活動等補助金)については、各校の申請をまとめ、交付決定(5月9日)を行いました。 感染症対策教育活動体制整備事業補助金については、各校の申請をまとめ、交付決定(7月14日)を行いました。 令和6年度学校配当予算の編成のため、校長へ配当予算の積算の依頼(11月10日)を行いました。
--------	---

令和5年度点検評価委員の意見等

・ICTを活用していくなかで、タブレット返却時にハード以外に保存されている学習アプリやクラウド上に残るデータの処理や残ったデータの管理と活用方法について、検討を進めてほしい。

・ICT支援員は、各学校でICTを推進していく中で、今後さらに需要が高まると思われるため、堅持してほしい。

・学校の先生が自腹で消耗品等を買うという話が書籍に書かれていた。草加市ではないと聞いているが、引き続き学校の先生が負担することがないようにお願いしたい。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	685,152,647	599,439,663	672,678,000
		一般財源	641,935,647	501,811,145	493,688,000
		特定財源	43,217,000	97,628,518	178,990,000
個別事業名	情報教育環境整備事業(小・中学校)		338,192,353	287,260,728	271,341,000
	教材教具整備事業(小・中学校)		5,109,200	4,335,760	3,879,000
	教科書等整備事業		11,350,126	11,340,699	124,113,000
	特色ある学校経営推進事業(小・中学校)		330,500,968	296,502,476	273,345,000
成果指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	教員が授業中にICTを活用したり児童生徒にICTを活用させたりすることで、授業の充実を図ります。		① 75.1%	① 90% (80%)	
	指標名		② 72.4%	② 90% (80%)	
	授業中にICTを活用し、児童生徒にICTを活用させることができる教員の割合 ①小学校 ②中学校			※()内は当初目標値	
	所属評価・達成状況				
1人1台のタブレット端末の運用が定着しつつあり、全ての教員がICTを使用した授業を行えるようになってきています。自己評価でも伸びが見られてきており、今後は効果的な活用の共有を進めていきます。					
評価	成果○と課題△	【ICTの整備と活用】〔評価B〕 ○児童生徒の自分の考えを伝える力を高める活動として、プレゼンテーションコンテストを実施し、児童生徒の能力の向上を見取ることができました。 ○学校訪問等を通しての指導・助言や教職員一人ひとりのICT活用能力の高まりによって、授業における授業改善の場面でICT機器の利活用が進みました。 ○やむを得ず登校できない児童生徒に対し、オンラインによる学習を今年度も継続して実施できました。 △小中学校のプログラミング教育について、草加市の指針を作成する必要があります。その第一歩として、「指導の基」にグランドデザインを作成しました。次年度以降随時更新を行います。 △校務パソコンや1人1台タブレット端末等について、教育委員会のセキュリティーポリシーを作成する必要があります。 △タブレット端末の活用の増加に伴って、児童生徒・教職員の情報モラル教育やネット依存、情報の真偽を確かめ取捨選択する力の育成についての研修を充実させる必要があります。			
		【教材教具の整備】〔評価B〕 ○学校から要望を受けた教材教具備品の購入に関しては、予算の範囲内で計画的に予算執行し、教材教具の充実を図ることができました。 ○国の補助金等を活用し、今年度は各校に感染症対策教育活動体制整備事業補助金を交付したことに伴い、各校において効果的な換気対策を行うことができました。 △楽器に限らず、柔道畳の一括買い替えなど学校配当予算では整備しづらい教材教具にどのようなものがあるかを引き続き検討していく必要があります。 【特色ある学校経営を推進するための予算の充実】〔評価B〕 ○学校の違いに応じた予算執行ができました。 △児童生徒が積極的に学習できるような学校環境を整えるため、各校に意見を聴取しながら、必要となる学校予算について把握し、引き続き予算を確保していく必要があります。 △予算執行については、契約に関する事務も含め、学校事務職員等が適正かつ効率的に処理できるよう、確認及び研修等を行っていく必要があります。			
令和6年度以降の取組	【ICTの整備と活用】 ・小中学校プログラミング教育の指針を随時見直しを図ります。 ・小中学校プログラミング教育に関する取組事例について研修会を実施します。 ・校務パソコンや1人1台タブレット端末等についての教育委員会セキュリティーポリシーの作成を検討します。 ・タブレット端末の活用場面の増加に伴う、児童生徒・教職員の情報モラル教育やネット依存、情報の真偽を確かめ取捨選択する力の育成についての研修会を実施します。 ・タブレット端末の効果的な活用方法について研修会を実施します。 ・小中学校情報教育推進委員会を上記の内容について実施します。 ・児童生徒・教職員の情報モラル教育やネット依存、情報の真偽を確かめ取捨選択する力の育成についての研修を充実させるため、小中学校情報教育推進委員会の取組をより充実させます。 【教材教具の整備】 ・学校の要望などに基づき、老朽化した楽器、体育器具等を予算の範囲で優先順位を付け更新します。 ・楽器の購入等については、令和6年度にガバメントクラウドファンディングにて寄付金を募って事業を推進する予定の中学校部活動推進事業(指導課)と必要に応じて連携・協議しながら、効率的効果的な予算執行を検討します。 ・長期間買い替え等が行われていない各中学校の柔道畳の状況に応じて、買い替え等を検討する必要があります。 ・理科備品の計画的・継続的な購入を目指します。 【特色ある学校経営を推進するための予算の充実】 ・各校における予算執行状況等を確認し適正執行できるよう、学校事務職員等に対する研修等を継続していきます。 ・学校長等から意見を伺うなど、各学校の状況に基づいた予算編成を行います。 ・特色ある学校経営推進事業補助金の交付手続を、交付要綱に基づき進めます。 ・過去の監査での指摘事項を踏まえた事務執行を指導していきます。				

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	Ⅱ	学びを通して生きる力を育む生涯学習社会の推進	担当課名	総合評価
	基本目標	4	学びの成果が発揮される生涯学習の推進	生涯学習課	B
	施策	4-1	生涯を通じた多様な学習機会の充実		

学びのきっかけづくりとして、市内にある学習情報を集約化した生涯学習情報提供サイト「マイ・ステージ」の充実と普及に努めます。また、生涯学習指導者バンク制度の周知と活用を進めることで、気軽に学習を始める体制を整えます。

大学、NPO法人、民間企業などと連携し、そうか市民大学や子ども大学そうかの内容の充実に努め、市民の高度で多様な学習ニーズに応じた学習機会を提供します。

学習の成果を地域づくりにつなげるため、社会教育関係団体への活動支援や新成人のつどいなどの機会を活用します。

学びを通して得た絆をいかし、地域を支える人材の育成を目指します。

【学びのきっかけづくり】

- 生涯学習情報提供サイト「マイ・ステージ」において、申込フォーム機能を積極的に活用することにより、サイト運用の幅を広げるよう努めました。
- 市ホームページの更新に努め、サイトとの連携を図りました。
- 年間を通じて生涯学習体験講座を開催し、市民の生涯学習活動へのきっかけづくりとするとともに、指導者バンク登録者に活動の場を提供しました。
- 指導者バンク登録者の技術向上や相互の情報交換を目的として、指導者バンク登録者研修会を開催しました。
- 生涯学習情報紙「マイ・ステージ」(広報そうか12月5日号折り込み)の発行について、編集委員のご協力を得ながら企画・取材を行い、子ども大学そうか・そうか市民大学・平成塾等の情報を提供しました。
- 草加市社会教育委員会議を2回開催しました。

【学びの充実とネットワークづくり】

- そうか市民大学前期・通年講座(5講座)、後期講座(3講座)及び特別公開講座を開催しました。
- 獨協大学と共催で「子ども大学そうか」を開校し、参加児童44人、5つの講義を実施しました。また、定員増員に向け、獨協大学と調整を行いました。
- 獨協大学オープンカレッジの開催を共催し、市民に様々な学習機会を提供しました。
- 上野学園大学短期大学部と共催で「市民のための音楽教養講座」を実施しました。

【学びの成果をいかす人づくり】

- 二十歳のつどい実行委員会を組織し、8月から11月までの会議(全5回)において今年度のテーマやシンボルマーク、当日のアトラクション等を決定しました。
- 二十歳のつどいへの参加を促すために、広報そうかに記事を掲載(12月5日号)するとともに、住民登録のある対象者(2,534人)に対して案内はがきを発送しました。また、住民登録のない方に対しても、参加を希望する方について同様に案内はがきを発送しました。
- 令和6年1月8日(祝)、獨協大学35周年記念館アリーナにて、1,725人(1回目907人、2回目796人、実行委員22人)を迎え、2回制により二十歳のつどいを開催しました。当日の運営・警備体制として、教育総務部職員、ガーディアン・エンジェルス草加支部の協力をいただくとともに、民間警備員も配置し、当日の会場周辺の交通安全対策や参加者誘導を行いました。また、会場内でボランティアによる着付け直しを実施しました。
- 二十歳のつどい参加対象者に限定し、式典等の模様を当日20時から1月31日までの期間、市公式YouTubeチャンネルにて配信しました。
- 各平成塾運営委員会に対して活動助成金の交付を行うとともに、各運営委員会にて助言を行うことにより、各平成塾の活動を支援しました。
- 6月27日(火)から6月30日(金)まで、中央公民館にて「第26回草加市平成塾活動合同発表会」を開催し、平成塾利用者が学習成果を発表する場を提供するとともに、平成塾事業を多くの方に知っていただくための機会としました。
- 栄平成塾のエアコン室外機、八幡平成塾のカーペットの修繕を実施しました。
- 栄小学校一般開放施設の貸出について、草加市シルバー人材センターに管理及び清掃業務を委託することにより、利用しやすい施設管理に努めました。

活動内容実績

令和5年度点検評価委員の意見等

・そうか教育だよりから各公民館・文化センターで、色々なイベントを取り組んでいることが分かるが、広報そうかと教育だよりの記載のイベントがそれぞれで分かれており、連携が取れていないと感じる。例えば、文化観光課・スポーツ振興課・子ども政策課など市長部局とも連携を取りながら行政の縦割りではなく、子どもを真ん中にすえた読み手にわかりやすい紙面構成、イベントの周知を検討してほしい。関係部署間で情報共有を図ることでお互いにプラスにつながる。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	19,444,461	22,401,789	23,489,000
		一般財源	18,500,431	21,362,729	21,955,000
		特定財源	944,030	1,039,060	1,534,000
個別 事務 事業 名	生涯学習推進体制整備事業	2,802,720	2,965,286	3,986,000	
	そうか市民大学運営事業	1,160,214	1,426,549	1,919,000	
	大学公開講座等推進事業	4,300,000	4,300,000	4,300,000	
	子ども大学そうか事業	123,437	137,951	309,000	
	二十歳のつどい企画運営事業	6,068,126	6,614,254	7,099,000	
	平成塾設置・管理運営事業	1,414,963	3,197,446	1,793,000	
	栄小学校施設一般開放事業	3,575,001	3,760,303	4,083,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	生涯学習活動の成果が地域づくりにいかせるよう取り組んでいきます。		43.8%	43% (33%)	
	指標名			※()は当初目標値	
	生涯学習活動を通じて身に付けた知識・技能や経験等を、地域活動やボランティア活動にいかしている人の割合				
	所属評価・達成状況				
感染症対策を起因とする日常生活の制限が緩和され、各種活動が再開される環境において、各種講座や講演会等の実施及び情報提供を行い、自ら学習機会を得る方の支援につなげたことで、身に付けたものを地域活動に還元している人の割合が増加したと考えられます。目標を一定程度達成することができました。					
成果 評価 ○と課題 △	<p>【学びのきっかけづくり】【評価B】 ○生涯学習情報提供サイト「マイ・ステージ」について、生涯学習課、公民館・文化センター職員を対象とした操作研修会を行い、学びのきっかけとなる情報提供体制の強化を図りました。 △生涯学習情報の提供体制について、引き続きインターネットやサークル紹介冊子「マイ・ステージ」などの紙媒体を用いる等、様々な媒体による情報提供に努めます。</p> <p>【学びの充実とネットワークづくり】【評価B】 ○そうか市民大学では、年間を通して様々な分野について、学習の場を提供することができました。 ○子ども大学そうかにおいて、参加児童数を40人から44人に増員し、獨協大学、文教大学、東京電機大学構内での講義を体験することにより、参加児童に普段の学校とは違う体験をしていただくことができました。また、参加児童並びに保護者アンケートの回答についても、高い評価をいただくことができました。</p> <p>【学びの成果をいかす人づくり】【評価B】 ○二十歳のつどいについて、対象者代表による誓いの言葉や市民憲章の朗読を行い、社会の一員としての成長と自覚を促す機会とすることができました。 ○動画配信の再生回数は、1回目は544回、2回目504回でした。 ○平成塾において、不具合のあった設備の修繕等を行い、安全で利用しやすい施設の維持を図りました。 △二十歳のつどい開催に向け、会場を獨協大学とする場合は多くの調整が必要です。また、多数の参加者が見込まれるため、会場周辺の住民や店舗に影響を与えることを考慮し、引き続き警備体制の検討が必要となります。 △開催会場の早期決定・公表をする必要があります。 △平成塾利用者の高齢化、所属サークル数の減少に伴う世代間交流事業の減少等に対応するため、利用者の拡大を図る必要があります。 △栄小学校一般開放施設を円滑に運営するため、共同利用している学校・平成塾・学校開放団体・放課後子ども教室と引き続き調整を図っていく必要があります。</p>				
令和 6 年度 以降 の 取 組	<p>【学びのきっかけづくり】 ・生涯学習情報提供サイト「マイ・ステージ」及び市ホームページの内容の充実を図ります。 ・年間を通じて生涯学習体験講座を開催します。</p> <p>【学びの充実とネットワークづくり】 ・そうか市民大学推進委員会において協議し、魅力ある講座を開催します。 ・獨協大学と共催で子ども大学そうかを開催します。また、定員を増員できるよう引き続き調整していきます。 ・獨協大学オープンカレッジ及び上野学園短期大学公開講座の開催を支援します。</p> <p>【学びの成果をいかす人づくり】 ・推薦及び公募により二十歳のつどい実行委員会を組織し、二十歳のつどいの開催に向けて準備を進めます。 ・開催会場の早期決定・公表ができるよう、関係機関との調整を進めます。 ・会場を獨協大学とする場合、同大学との打合せ等を行い、安全な式典実施に向けた準備を進めます。 ・平成塾活動助成金が有意義に活用されるよう、平成塾の活動を支援します。 ・平成塾と学校が円滑に事業を進めることができるよう、調整を行います。 ・平成塾利用者の拡大のため、事業の周知に取り組みます。 ・安全で快適に平成塾を利用していただくために、必要な修繕等を行います。 ・栄小学校一般開放施設を安全で快適に利用していただくために、必要な管理・運営を行います。 ・栄小学校一般開放施設の利用拡大のため、周知に取り組みます。</p>				

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	Ⅱ	学びを通して生きる力を育む生涯学習社会の推進	担当課名	総合評価
	基本目標	4	学びの成果が発揮される生涯学習の推進	中央公民館	B
	施策	4-2	公民館・文化センターの整備と生涯学習環境の充実		

公民館・文化センターの整備については、草加市公共施設等総合管理計画に基づき施設の長寿命化を図るため、適切に施設の状況を把握し、より効果的・効率的な維持管理や修繕に努めるとともに、公民館・文化センターの長寿命化計画(個別施設計画)の策定を進めます。なお、中央公民館及び川柳文化センターについては、耐震化に向けた施設の整備も併せて検討します。

公民館・文化センターの運営については、放課後における子どもたちの居場所づくりを継続して進めるとともに、子育て支援事業及び高齢者事業の充実並びに外国籍市民向けの事業の実施を進めます。

併せて、既存や新規事業について、大学、NPO法人、サークルや団体など民間学習団体の学習資源の積極的な活用を図ります。また、施設利用については、利用手続の簡素化や利用条件の緩和など、学習施設の利便性の向上の検討を進めます。

【地域における生涯学習施設の整備】
 ・公民館・文化センターの整備について、草加市公共施設等総合管理計画に基づき長寿命化を図るため、施設の状況の把握を行い、関係部署と調整を行いました。
 ・各館、緊急的な修繕を適宜実施しました。

【身近で地域性をいかした学習機会の提供】
 ・各公民館・文化センターの主催事業として、青少年事業55事業、成人事業67事業、高齢者事業29事業、総合事業23事業、音楽と文化のまちづくり事業42事業で合計216事業を実施しました。
 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止していた公民館・文化センターまつりを4年ぶりに開催しました。

活動内容実績

令和5年度点検評価委員の意見等

・各学校において多様な文化の子が日本語学習をしている中で、外国籍市民向け事業として、日本語学習だけでなく、料理講座や日本の生活様式を学ぶための講座を取り入れることは、外国籍の市民と地域住民が交流でき、挨拶などにもつながる良いきっかけづくりとなると感じた。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	152,425,089	166,953,912	176,058,000
		一般財源	130,416,775	142,712,866	149,529,000
		特定財源	22,008,314	24,241,046	26,529,000
個別 事務 事業 名	公民館等事業(6公民館)	152,425,089	166,953,912	176,058,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	公民館を活用して生涯学習活動に取り組む市民を増やします。		455,723人	600,000人	
	指標名				
	公民館・文化センター利用者数				
	所属評価・達成状況				
令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5月8日に5類に移行されたことにより、公民館・文化センターでの活動が活発になり、また、講座やイベント等が計画どおり実施することができたことから令和4年度と比較して利用者数は増加いたしました。					
成果 評価 ○と課題 △	【地域における生涯学習施設の整備】【評価B】 ○各公民館・文化センターにおいて緊急修繕を実施するなど、利用者の利便性の向上及び安全性の確保を図りました。 △中央公民館及び川柳文化センターの耐震補強及び大規模改修について、継続して調整を図る必要があります。				
	【身近で地域性をいかした学習機会の提供】【評価B】 ○放課後や長期休みにおける子どもたちの居場所づくりを継続して進めました。 ○大学、NPO法人、サークルや団体などと連携して、学びの成果が発揮していただける内容の講座を開催しました。 △コロナ禍で縮小した事業について、アフターコロナの時代に対応する方法の検討が必要です。				
令和6年度以降の取組	【地域における生涯学習施設の整備】 ・各公民館・文化センターにおいて、安全で快適に利用していただくために、必要な修繕等の管理を行います。 ・中央公民館及び川柳文化センターの耐震補強及び大規模改修について、引き続き調整を図ります。				
	【身近で地域性をいかした学習機会の提供】 ・すべての事業において、SDGsの達成に寄与するよう努めます。 ・子育て世代の学習や交流の推進を目的とした子育て支援事業を実施します。 ・高齢者等を対象とした健康や生きがいづくりの事業を実施します。 ・町会など地域の団体や社会教育関係団体等と協働した事業を実施します。 ・土曜日、放課後、夏休み等において子どもたちの居場所づくり事業を実施します。 ・外国籍市民向けの事業を実施します。				

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	Ⅱ	学びを通して生きる力を育む生涯学習社会の推進	担当課名	総合評価
	基本目標	4	学びの成果が発揮される生涯学習の推進	生涯学習課 歴史民俗資料館	B
	施策	4-3	文化遺産の発掘・保存・活用の計画的、継続的な取組の推進		

草加の歴史文化を構成する貴重な文化財について、草加市文化財保護指針を踏まえ、「文化財保護意識の高揚」、「文化財保護体制の確立」、「文化財保護施設の整備」の三つを大きな柱とし、個々の取組を推進します。

- 【文化財保護意識の高揚】**(生涯学習課)
- ・「草加お宝かるた」を、令和6年度の小学校新一年生に対し、年度当初に配布できるよう準備を進めました。
 - ・指定文化財について現況調査をするとともに所有者と意見交換を図りました。
 - ・草加松原に係る次年度の整備計画について、庁内検討会において意見交換の上で調整を図りました。その後、保存活用委員会において計画内容についての承諾を得て、事務手続を進めました。
 - ・国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」整備基本計画の事業工程計画について、予定されていた整備計画期間中間年の見直しを実施しました。
 - ・市指定文化財等の解説板2基の修繕を行いました。
 - ・文化財調査報告書⑨を作成しました。
- 【文化財保護体制の確立】**(生涯学習課)
- ・埋蔵文化財については、埋蔵文化財包蔵地における開発に伴う試掘調査、工事立会を行いました。
 - ・歴史的資料について再精査し、資料整理を図りながら中性紙収納箱等への入替作業を進めました。
- 【文化財保護施設の整備】**(歴史民俗資料館)
- ・端午の節句展、ミニ企画「七夕かざり」、夏季企画展として収蔵資料展「くらしのうつりかわり」を開催し、日頃市民の目に触れない資料を見ていただくことができました。また、地域学習の観点からも、子どもたちに見てもらうことができました。
 - ・恒例となりました4回連続講座「そうか芭蕉塾」も盛況のうちに終了することができました。
 - ・関東大震災から100年になることから「1923.9.1-関東大震災と草加-」展を開催しました。
 - ・開館40周年を記念して、草加市の生んだ小説家「追憶の豊田三郎」展を開催しました。その他記念事業として、商店街との連携により「たぬき絵作品展」を実施しました。
 - ・草加松原が国の名勝に指定され10周年となることから、写真・パネル展を開催しました。
 - ・企画展講座を年5回、草加宿のを中心とした歴史講座を年7回開催しました。そのうち草加史談会との共催で歴史講座を年2回実施しました。子ども向け「れきみん体験教室」は、年13回開催しました。
 - ・文化財である歴史民俗資料館の収蔵資料の整理・見直し業務を計画的に進め、データベースの充実を図りました。

活動内容実績

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)	
		総額(円)	16,051,472	16,354,274	18,234,000	
		一般財源	16,044,572	16,334,774	18,211,000	
		特定財源	6,900	19,500	23,000	
個別 事務 事業 名	文化遺産の発掘・保存・有効活用推進事業	3,248,325	3,672,655	4,073,000		
	国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」の保存・活用推進事業	268,392	129,008	533,000		
	歴史民俗資料館管理運営事業	12,534,755	12,552,611	13,628,000		
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)		
	(1) 草加市民や来草者が訪れてみたいと思える魅力ある歴史民俗資料館の事業を企画する。講演・講座・企画展・体験講座など楽しく学び、草加の歴史や文化を知り、愛着を持ってもらえるよう心掛け、来館者増につなげていきます。		(1) 10,620人	(1) 15,800人		
	(2) 歴史民俗資料館において、講座、歴史に関する講演会、文化財関連の講座の開催、子どもたちのための体験教室、その他季節ごとの催しを可能な限り展開し、市民や来草者に館の存在意義を示していきます。					(2) 114回
	指標名		※()は当初目標値			
	(1) 歴史民俗資料館来館者数					
	(2) 年間講座等(講演、講習、体験教室)開設数					
所属評価・達成状況						
(1) コロナ禍対応が、令和5年5月に5類に移行したことで、事業計画をコロナ禍以前の水準に戻しました。このことにより、来館者が徐々に増加していますが、以前の水準にはなっていません。小学校第3学年社会科見学については、インフルエンザの流行などで見学を見合わせる学校があり、21校中15校の来館でした。						
(2) コロナ禍対応が緩和され、講座や体験教室等は、全て計画どおり実施することができました。目標としていた講座等開設数は達成することができました。						
令和5年度点検評価委員の意見等						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育などと比べて市民に馴染みがない部分が多くあるが、草加市では様々なかたちで文化財保護につながる企画が開催されており、充実している。 ・学校外で文化財保護に関する教育を行うことは重要であり、専門家が積極的に関わっている取組については、今後も堅持してほしい。 ・歴史民俗資料館では、様々な子ども向けの企画が開催されており、今後も、積み重ねと色々な世代に焦点を当てて実施することが大事である。 ・れきみん体験教室はどのテーマも子どもたちが参加してみたいような内容で、充実している。 ・川口市では、学芸員の先生が鋳物工場に訪問し、現場の人にインタビューをする様子を教室の大型モニターにリアルタイムで映写するといったかたちで、現場に行かずに社会科見学を実施していた。リアルタイムで子どもたちの興味を引くことができ、生徒からの質問はチャットで行うといった工夫もされていた。そこで、例えば歴史民俗資料館から距離のある学校への学習機会の提供やバスを借りることができない際の対応策として、歴史民俗資料館等でオンラインによる社会科見学の実施を検討してほしい。 ・歴史民俗資料館や学校に負担がかからない範囲で、現地に行って学ぶことができない子どもに還元できる学びのかたちを検討してほしい。 						

【文化財保護意識の高揚】〔評価B〕

○「草加お宝かるた」の活用、指定文化財の所有者との意見交換、歴史民俗資料館の企画展や講座などの取組により文化財に対する親しみを深め、市民共有の財産として大切にしていこうという思いが育まれました。

○草加松原整備基本計画に基づいた庁内検討会及び保存活用委員会において、計画に基づく整備などについての情報共有を図りながら、事業を進めることができました。

△『草加の歴史と文化財ハンドブック』について策定から10年以上経過しており、草加松原に関する記載もないことから、一層の活用を図るために内容のリニューアルを進める必要があります。

【文化財保護体制の確立】〔評価B〕

○試掘調査等により開発工事による遺跡への影響などを確認することができました。

△調査報告ができていない遺跡について、遺跡の記録保存を完遂するため、遺構の確認や遺物を整理し、調査報告書の予算化をし、作成する必要があります。

△市史編さん事業等で収集した未整理の資料等について、学術的活用等を図るため整理を行う必要がありますが、作業量が膨大となるため、整理に関わる体制整備を検討する必要があります。

【文化財保護施設の整備】〔評価B〕

○歴史民俗資料館が開館40周年の記念すべき年に当たり、企画展を実施し、その他記念事業を実施することができました。

○企画展、講座、体験教室など職員一人ひとりの能力をいかし、それぞれ計画的に進め、学芸活動を充実させることができました。

○市長の記者発表の機会をとりえての情報発信や、市の広報、「れきみんだより」の発行、ポスター、チラシ配布、フェイスブックの活用など広報活動の充実に努めることができました。

○企画展図録や「れきみんブックレット」を発行し、内容の理解に役立てることができました。

○市民の興味関心に応えるため、また、歴史講座、各種講座の充実をめざし、内容の検討、新たな講師陣の発掘に努めました。

△収蔵資料の整理・見直しは、継続的課題であり、創意工夫が求められます。今後も、長期的視野に立って、データベースの充実に向けて取り組んでいく必要があります。

△展示解説パネルや展示資料の更新を行っていますが、市民を始めとする来館者に見やすい環境の設定、興味・関心を持ってもらえる展示にするため、引き続き作業を進める必要があります。

△今までも情報発信には努めてきましたが、さらに工夫して、SNSなど様々な情報手段を駆使して、講座やイベント情報など情報発信に努める必要があります。

【文化財保護意識の高揚】

- ・小学校新一年生を対象に「草加お宝かるた」を配布し、大会を開催するなど活用を図ります。
- ・文化財調査報告書④を作成します。
- ・『草加の歴史と文化財ハンドブック』のリニューアルについて検討します。
- ・草加松原について、庁内検討会及び保存活用委員会において検討を図り、計画的な整備の進行管理を進めます。
- ・市指定文化財等の解説板について、計画的な修繕の検討を進めます。

【文化財保護体制の確立】

- ・令和元年度に発掘調査を行った遺跡について、遺物・遺構等の整理を行い、調査報告書の作成ができるよう準備を進めます。
- ・埋蔵文化財包蔵地での土木工事に対し、試掘・工事立会により遺跡等の確認を引き続き行います。また、事業者等による確認に基づき土木工事に対する指導等を実施します。
- ・市史編さん事業等で収集した未整理の資料等について、整理を図るための方策について検討を進めます。

【文化財保護施設の整備】

- ・草加宿場まつりが5年ぶりに開催されることから、祭りを盛り立てるべく、夏季企画展「日光道中草加宿と参勤交代-仙台藩(伊達家)を中心として-」を開催します。
- ・地元草加駅前一番通り商店会と連携して「たぬき絵作品展」を開催し、合わせて関連事業も計画します。
- ・恒例となりました「そうか芭蕉塾」の開催など国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」について関連した講座を開催していきます。
- ・市民ニーズに応える企画展や、充実した歴史講座を開催し、リピーターを増やす努力をしていきます。
- ・大切な文化財である歴史民俗資料館の収蔵資料の整理・見直し業務を計画的に進めていますが、引き続きデータベースの充実を図っていきます。
- ・地域の資料を活用しての古文書講座を継続開催していきます。講座を通して資料を扱える市民ボランティアの育成に努め、資料整理等の講習を行います。
- ・展示解説パネルや展示資料の更新を行っていますが、市民の皆様をはじめ来館者に興味・関心を持って来館していただけるように引き続き作業を進めていきます。
- ・講座やイベント情報など工夫して情報発信してきましたが、更に多種多様な情報発信に努めます。

令和6年度以降の取組

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	Ⅱ	学びを通して生きる力を育む生涯学習社会の推進	担当課名	総合評価
	基本目標	4	学びの成果が発揮される生涯学習の推進	中央図書館	B
	施策	4-4	読書活動を支える図書館サービスの充実		

本市における「知の拠点」として、市民の生涯にわたる自主的な学習活動を支え促進するとともに、教養、調査研究、レクリエーションの三つを施設目的として掲げる図書館法に基づき、「図書・その他の資料の充実及び効果的・効率的な提供」「郷土資料等の充実」「レファレンスの充実」「誰もが使いやすい図書館サービスの充実」「子ども読書活動の推進」「快適な利用環境の整備・維持」を柱として個々の取組を推進します。

活動内容実績(1)	<p>【図書・その他の資料の充実及び効果的・効率的な提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中央図書館、6公民館図書室等の資料の新陳代謝に努め、児童書を重点的に魅力ある蔵書を整備しました。 中央図書館と6公民館図書室等を結ぶ図書館ネットワークの活用や電子図書館により、効果的・効率的に資料を提供しました。リクエストを受けた所蔵のない資料は相互貸借により提供しました。 ブックリストの配布や、「関東大震災から100年～地震と防災～」や「認知症と生きる」等のテーマに合わせた資料をテーマ本コーナーで紹介するなど読書活動に関する広報・啓発を推進し市民が読書に親しむ環境を充実しました。 図書館ホームページの定期的な更新や図書館だより(年4回)の発行、アウトリーチサービスの実施等により、図書館や図書館サービスの利用方法を周知し、利用促進を図りました。 返却図書預かりサービスとして、市役所本庁舎に図書の返却ができるスポットを庶務課の協力により設置しました。 第四次草加市教育振興基本計画に基づき、令和6年度の中央図書館事業計画を策定しました。 <p>【郷土資料等の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> おくのほそ道やドナルド・キーン等草加にゆかりのある資料や人権及び平和に関する資料の収集に努め、郷土資料等の充実を図るとともに、ギャラリー展示「豊田三郎展」にて郷土資料の紹介を行いました。 「ドナルド・キーン先生と草加」のギャラリー展示では、おくのほそ道やキーン氏に関する資料を紹介するとともに、館内の「ドナルド・キーンコーナー」の紹介を行いました。 人権啓発のギャラリー展示(人権共生課)や男女共同参画週間に合わせ、テーマ本コーナーで資料の展示やブックリストの配布を行い、特設コーナー(人権・男女共同参画)や関連資料の紹介を行いました。 <p>【レファレンスの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者からの質問や相談を受け、所蔵資料の検索や調べ方の案内等を行いました。利用者自身による課題解決の支援を図るため、これまでに回答したレファレンス事例を国立国会図書館のレファレンス協同データベースで一般公開しました。 利用者からの要望を受け、持ち込み端末利用席の利用回数の見直しを行いました。 レファレンスサービス、オンラインデータベース及び持ち込み端末利用席についてX(旧ツイッター)で紹介し、利用促進を図りました。 <p>【誰もが使いやすい図書館サービスの充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子図書館では、音声読み上げや文字拡大機能を取り入れた電子書籍を購入し、テーマ別に特集を組み、ブックリストの配布や館内掲示等により、利用者の関心を高めるとともに、広報そうか折込みの「教育だより」等に宣伝記事を掲載して利用促進を図りました。 電子図書館では児童書読み放題パックを導入し、朝読書等の利用を希望した市内小学校に利用ID・PWの配布を行い、児童の読書支援を図りました。 バリアフリー資料の利用促進のため、谷塚文化センターに大活字本及び大活字本のリストを配置しました。 バリアフリー資料について、バリアフリーコーナー、ブックリスト及びX(旧ツイッター)で紹介しました。また、障害者週間に合わせて12月からテーマ本コーナーで資料を展示しました。 視覚障がい者に対面朗読や録音図書(DAISY)の作成・提供を行いました。 バリアフリーサービスについて、チラシ、図書館だより、図書館ホームページ及びX(旧ツイッター)等により周知を図り利用を促進しました。 障がいの有無にかかわらず映画を楽しむことができるよう、バリアフリー字幕及び音声ガイド作品を上映するバリアフリー映画会を、障害者週間に合わせて12月3日に一部手話通訳付きで開催しました。 読書バリアフリー法に基づき、読書に困難を抱える人が利用しやすいサービスについて、次期子ども読書活動推進計画及び次期教育振興基本計画等の素案へ掲載しました。 市民ボランティアと連携してにほんごひろば等を実施しました。 日本語を学習している日本語を母語としない市民向けに、おすすめの本を集めた「にほんごをまなぶコーナー」を設置しました。また、館内にやさしい日本語や、マーク等を用いたトイレ等の案内板を設置しました。 <p>【子ども読書活動の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第一次計画の進捗状況を確認しました。 関係者や市民の意見を聴取して第二次草加市子ども読書活動推進計画案を策定しました。 児童書の充実を図るために、12月1日から2月29日の間、総合政策課及び広報課と連携しながらクラウドファンディング型ふるさと納税を実施し、関係団体などに広く周知しました。 発達段階に応じた様々な取組により、子どもと本が出会う機会を創出しました。 <児童サービス(乳幼児から小学生対象)> 小学校に対し調べ学習や総合学習の資料提供を行いました(随時)。 読み聞かせ講習会(2回)、ブックトーク(3校)、家庭向け読み聞かせ講習会(2回)を実施しました。 市民ボランティアと連携し、乳幼児や小学生向けに読み聞かせ(週4回)を実施しました。 小中学校と連携した「令和5年度ビブリオバトル・草加の陣」(会場・オンライン併用)を開催し、令和5年度読書活動推進研修会にてチャンプ本を発表しました。 「こどもの読書週間」(春)や「読書週間」(秋)におすすめの児童書を詰めた「お楽しみ袋」や講演会、ギャラリー展示、スペシャル読み聞かせを実施しました。 発達段階に応じた絵本・児童書のブックリストを配布し、家庭での読書支援を行いました。
-----------	--

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)	
		総額(円)	132,982,286	122,209,223	120,981,000	
		一般財源	120,740,651	121,462,193	119,045,000	
		特定財源	12,241,635	747,030	1,936,000	
個別 事業 名	図書館情報サービス・管理運営事業		132,982,286	122,209,223	120,981,000	
成果 指 標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)		
	市民一人当たりの年間貸出冊数を増やして、図書館の使命である市民への情報提供を充実させることにより、文化の向上と生活課題の解決に貢献します。		3.90点	5点		
	指標名					
	市民一人当たりの年間貸出資料数					
	所属評価・達成状況					
	電子書籍の充実により、電子書籍の貸出数は増加しましたが、紙の図書やAV資料の貸出数が減少し、市民1人当たりの年間貸出資料数の目標を達成できませんでした。					
活動内容実績(2)						
<p><YAサービス(中学生・高校生世代対象)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の読書環境整備事業を開始し、Ya-Room.com及び中央図書館テーマ本コーナーで高校の図書委員が選ぶ「推し本」を紹介し、中高生を中心に幅広い年齢層に向けて読書啓発を行いました。 ・中高生への読書啓発、社会教育活動を目的としたYAワークショップを実施し、他の中高生、高校図書館司書、図書館職員との交流を通して図書館や読書に対する意識を深める場を提供できました。 ・高校との連携事業の一環として、草加高校吹奏楽部によるクリスマスライブラリーコンサートを開催し、読書や図書館に日常親しんでいない方への図書館来館・読書機会を提供しました。 ・定期テスト前に集会室を開放し、中学生・高校生世代に学習の場を提供しました。 年間50日間(合計365時間) <p>【快適な利用環境の整備・維持】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電動ブラインド不具合を手動ブラインドへ交換するなど、施設・設備の維持管理・修繕を適切に行いました。 ・管理組合と協議の上、非常階段の手すりなどを追加で設置し、避難経路の安全対策を講じました。 ・令和4年度に策定した図書館施設・設備の長期修繕計画に基づき、今後の施設・設備の修繕や更新等の時期を把握するとともに必要な経費について財政担当部局と情報共有を図りました。 ・多目的ホールの使用料収入を増やすために、案内ポスターを作成・館内掲示するとともに、多目的ホール利用方法等を周知しました。 ・広告付きレシートロール紙を令和6年度に導入できるように広告掲載要領や募集要項等を整理しました。 						
令和5年度点検評価委員の意見等						
<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディング型ふるさと納税を活用した児童書の購入は、本が年々値上がりし、思うように児童書を購入できなくなってきた時代で、非常に有効であると考えている。 ・昔の本だけでなく、新しい本があれば本を借りたいと思う子どもも増えると思うため、引き続きクラウドファンディング型ふるさと納税等を活用するなどして、児童書の充実に努めてほしい。 ・市役所のブックポストの設置、電子図書館は、市民目線で考えられた利便性向上につながる取組であり、評価できる。 ・市民ボランティア活動と連携し、情報発信やイベントを企画することは地域と一体となった取組であり、草加の特徴といえる。 ・SNSを活用した周知については、若い世代に対しても有効であるため、引き続き効果的に活用してほしい。 ・中央図書館にイベント・機能が集中しており、文化センター・公民館にも図書館はあるが、結局、中央図書館を利用することになるなど、地域によっては活用しにくいと感じる人もいる。 ・限られた予算の中で難しいと思うが、公民館・文化センター祭りなどに図書館が出向いて、本に触れるイベントを企画することも検討してほしい。既存のものを生かして、予算を使わず本と親しむ機会を様々な地域で提供できるとよい。 ・草加市として、幼保小中を一貫した教育を推進しているため、保育園、幼稚園の参観日に出向いて読み聞かせなどを実施するなどして、幼稚園・保育園の段階から本と触れ合う取組を行うことも検討してほしい。市の子育て部署などとも連携し、縦だけでなく、横とのつながりも持つよう取り組んでほしい。 ・成果指標について、人口が約25万人いる中で、年間約100万冊近くの本が借りられていることは評価できる。 ・図書館で開催されている企画について、働いている世代に対する企画が少ないと感じるため、各層まんべんなく企画してほしい。 ・夏休みの子供向けに特化したコーナーはすごく良い取組だと感じたが、図書館に行った人しか気が付くことができないため、夏休みに学校と連携して積極的に周知してもらうよう工夫してほしい。 ・小学生は高学年にならないと図書の貸し出しができないため、小学校低学年の児童にも読書をする習慣を身に付けてもらうため、図書館の利用を促したり、夏休み中も学校を通じて本を借りることができる窓口を1、2日程度設ける等の取組なども、学校、保護者と連携するなどして検討してほしい。 						

【図書・その他の資料の充実及び効果的・効率的な提供】〔評価B〕

○基本的感染防止対策を講じた図書館サービスの運営や電子図書館などの非接触型サービスの提供により、市民への読書支援を継続することができました。

市全体貸出数(電子書籍含む)977, 977点
対前年度比 -7, 153点

○図書館の中央図書館入館者数や電子書籍の貸出数が増えました。

入館者数 391, 085人 対前年度比 +26, 563人
電子書籍貸出数 29, 302点 対前年度比 +8, 365点

○他の公共図書館等との相互貸借及び獨協大学図書館の紹介状の発行を行いました。

借受点数 2, 851点 対前年度比 -583点
獨協大学図書館の紹介状の発行 4件 対前年度比 -1件

○第四次草加市教育振興基本計画の策定により、中期的な目標が明確になりました。

△市役所本庁舎への図書館サービス拠点の整備やアウトリーチサービスの実施等により、広く市民に資料や情報を提供することが必要です。

△貸出数の増加に結び付く図書館事業・サービスを整理し、今後の図書館運営を考えていく必要があります。

【郷土資料等の充実】〔評価B〕

○郷土作家やドナルド・キーン等、草加にゆかりのある人物の展示を行い、郷土資料の利用を促進し、利用者のふるさと意識の醸成につなげました。

△文化観光課、歴史民俗資料館、生涯学習課と連携を深め、保有する資料や情報を発信することにより、市民に郷土の歴史や文化を伝えることが必要です。

【レファレンスの充実】〔評価B〕

○所蔵調査・参考調査相談受付件数 22, 639件(対前年度比 +398件)

○持込み端末利用席(22席)延べ利用人数 8, 375人(対前年度比 2, 451人)

○オンラインデータベース利用席(2席)延べ利用人数 143人(対前年度比 +59人)

△インターネット端末利用席(4席)延べ利用人数 1, 845人(対前年度比 -42人)

【誰もが使いやすい図書館サービスの充実】〔評価A〕

○電子書籍 貸出可能数 7, 207点(対前年度比 +456点)
貸出点数 29, 302点(対前年度比 +8, 365点)

○点字資料、大活字本、LLブック、布絵本等のバリアフリー資料を提供しました。

貸出点数 4, 677点(対前年度比 +733点)
蔵書数 3, 545点(令和6年3月31日現在) (対前年度比 +2点)

○障がい者サービス利用者 新規登録 2人

- ・対面朗読実施 2回(対前年度比 -9回)
- ・録音図書送付 158件(対前年度比 -50点)
- ・バリアフリー上映会の参加人数 15人
上映作品 マイスモールランド

○にほんごひろばの市民ボランティアと情報を共有して外国籍市民のニーズ(ことばの理解等)を把握することができました。

にほんごひろばの参加者 1, 242人(23か国)

△障がい者サービスの利用方法についてさらに周知を図る必要があります。

【子ども読書活動の推進】〔評価A〕

○第二次草加市子ども読書活動推進計画策定により、目標や方針等が明らかになりました。

○クラウドファンディング型ふるさと納税を実施した結果、延べ106人、158万2千円のご寄附をいただき、寄附額の全額を令和6年度の児童書購入に活用することができるようになりました。

<児童サービス(乳幼児から小学生対象)>

○調べ学習及び総合学習への資料提供

小学校7校8クラス(1児童クラブ、miraton)計936点(対前年比 +359点)

○職員及び市民ボランティアのスキルアップ(参加者延べ83人)、家庭向け読み聞かせの支援及び子育て支援(参加者親子16組40人)

○児童室での読み聞かせの実施回数209回 参加人数2, 808人(対前年比 +548人)

○「令和5年度ビブリオバトル・草加の陣」チャンプ本

小学校中学年の部『5文字で四字熟語』

小学校高学年・中学生の部『ザ・パーフェクト』

○ボランティアと連携したアウトリーチサービスの実施(4回)

△放課後児童クラブ等、図書館サービスの行き届いていない場所へ図書館サービスを提供していく必要があります。

△児童書の貸出冊数(施設計)415, 566冊(対前年度比点 -9, 680点)

<YAサービス(中学生・高校生世代対象)>

○展示ギャラリーで紹介した市の音楽都市宣言30周年に合わせて、高校との連携事業の一環として草加高校吹奏楽部によるクリスマスライブコンサートを開催して、観覧者81人にクリスマスにちなんだブックリストを配付しました。

○中学生・高校生世代が定期テスト前に学習しやすい場所を確保するとともに、図書館の利用につなげました。(入館者数 +30, 671人)

△子どもが主体的に読書活動に取り組む機会としてYAワークショップを実施しましたが、さらなる実施機会を作り発展させていく必要があります。

【快適な利用環境の整備・維持】〔評価B〕

○修繕を完了し、快適な利用環境を維持しました。

- ・リモコンリレーの接触不良 5か所、照明の断線 1か所、非常灯の不点灯 8か所
- ・地域開放型図書室自動ドアタッチスイッチ部分 1か所
- ・公用車のランプ 1か所 ・防火シャッターバッテリー 4か所
- ・空調設備ガスヒートポンプチャラーのフロースイッチ1台、バッテリー 5台
- ・ブラインド 3か所

△施設・設備の保守点検の中で、不具合などを指摘されている、エレベーター主ロープ、排煙窓及び空調設備ガスヒートポンプチャラーなどについては、修繕の緊急性や必要性を踏まえ、修繕の実施時期等を検討する必要があります。

△屋上専有部分のハトの糞や羽、死骸等の対策について今後も管理組合等と協議を継続し、清掃等を実施する必要があります。

△多目的ホールの使用料収入を増やすために、多目的ホール利用方法等の周知を継続的に行っていく必要があります。

△令和6年度に広告付きレシートロール紙を導入できるように、広告掲載要領や募集要項を定め、速やかに募集案内を行う必要があります。

【図書・その他の資料の充実及び効果的・効率的な提供】

- ・中央図書館では、ユニバーサルデザインに配慮した電子図書館の充実や児童書に重点を置いた魅力ある蔵書の整備、公民館図書室等とのネットワークの活用により、図書館資料を効果的・効率的に提供します。
- ・ブックリストの配置やテーマに沿った本の紹介など読書活動に関する啓発・広報を推進し、学校・家庭・地域において、市民が読書に親しむ環境の充実を支援します。
- ・積極的な情報発信により、図書館の認知度を高め、貸出数を増やします。
- ・他の公立図書館との相互貸借や獨協大学図書館との連携により、本市が所蔵していない図書館資料も利用者に提供できるよう努めます。
- ・アウトリーチサービスについて、令和5年度の事業を検証し、より多くの方に参加してもらえるように工夫して実施します。
- ・図書館電算システムの更新(契約事務、更新準備、更新作業、2月1日からシステム稼働)を行い、利用者の利便性を向上させます。
- ・図書館電算システムの更新に併せて、市役所本庁舎9階に電算システムを導入し、新たな図書館サービスポイントを整備します。
- ・市役所本庁舎にブックポストを設置します。
- ・草加町立図書館が創立されてから100年を記念して、講演会、企画展などの文化事業を実施し、市民に読書や図書館の魅力を伝えます。

【郷土資料等の充実】

- ・『おくのほそ道』やドナルド・キーン等草加にゆかりのある資料の収集に努め、郷土資料の充実を図り、資料の紹介を行います。
- ・人権及び平和に関する資料の充実を図り、広く利用者に紹介します。
- ・特設コーナー配架資料をはじめとする人権関連資料の利用促進のため、男女共同参画週間や世界難民の日等に合わせ、テーマ本コーナーでの資料展示等を行います。

【レファレンスの充実】

- ・市民の生活課題や身近な調べ物の相談窓口となるレファレンスサービスの利用方法を周知し利用を促進します。
- ・レファレンス事例の公開やオンラインデータベース、Wi-Fiを導入した持込み端末利用席等の周知により、利用者自身で調査や解決ができるように支援します。

【誰もが使いやすい図書館サービスの充実】

- ・電子図書館の充実を図り、視覚障がい者等に音声読み上げや文字拡大機能付きの電子書籍を提供し、図書館に来館が難しい方の利用促進を図ります。
- ・電子図書館の児童書読み放題パックの周知を図り、子どもたちの読書支援を図ります。
- ・点字資料、大活字本、LLブック、布絵本等を提供するとともに、バリアフリー資料について周知を図り、利用を促進します。
- ・図書館協力者や市民ボランティアと連携し、対面朗読及び録音図書(DAISY)の作成・提供を行います。
- ・バリアフリーサービスや多文化サービスの充実を図り、読書に困難を抱えている人の図書館利用を促進します。
- ・障がいの有無にかかわらず映画を楽しむことができるよう、バリアフリー字幕及び音声ガイドが付いた作品を上映するバリアフリー映画会を開催します。
- ・「にほんごをまなぶコーナー」については、やさしい日本語で記載された行政関連のチラシ、パンフレット等を閲覧に供することができるように幅広く収集します。
- ・中長期的には図書館機能と地域に必要な行政機能を複合施設において融合させ、多様な世代の市民の新たな学習や交流の場の確保を検討します。

【子ども読書活動の推進】

- ・第二次草加市子ども読書活動推進計画に基づき取組を推進し、進捗管理を行います。
- ・クラウドファンディング型ふるさと納税を活用し、児童書の充実を図ります。
- ・調べ学習及び総合学習への資料提供を通じ小学校の読書活動の支援に努めます。また、申込みを受けて、子育て支援施設等への本の団体貸出を行い、施設における読書活動を支援します。
- ・職員や市民ボランティアによる読み聞かせやおはなし会、工作会等を開催し、親子で本と触れ合う機会の提供や読書活動の推進に努めます。
- ・市民ボランティアと連携し、地域で読み聞かせ等を行うアウトリーチサービスを実施することにより、図書館サービスの利用を促進します。
- ・草加っ子「読書活動推進プラン」令和5年度草加市教育委員会研究委嘱校の委嘱が終了し、公募による「ビブリオバトル・草加の陣」を開催します。
- ・小学校・中学校への読書支援について、方法の確認や今後についての検討を行います。
- ・草加市立図書館協議会等を開催し、図書館奉仕に係る意見の聴取や草加市子ども読書活動推進計画の進捗管理を図ります。
- ・学校や関係諸機関、読書に携わる市民ボランティアと連携し、発達段階等に応じた取組により、子どもと本が出会う機会を創出します。
- ・高校生の読書環境整備事業を継続し内容を充実させることで、関係者の意識向上を図るとともに、中高生の読書啓発を促進します。
- ・YAワークショップ等の企画運営を高校生と一緒に実施(子どもの参画)し、高校連携事業の促進及び中高生への読書活動普及を図ります。

【快適な利用環境の整備・維持】

- ・施設・設備の維持管理や、修繕を適切に行い、施設・設備の長寿命化を図ります。また、保守点検委託の中で不具合などを指摘されている、エレベーター主ロープ、排煙窓及び空調設備ガスヒートポンプチャラーなどについては、修繕の緊急性や必要性を踏まえ、修繕の実施時期等を検討します。
- ・庁内関係課や市民ボランティアと連携し、多目的ホールの有効活用を図るとともに、一般利用(有料分)の促進を図ります。
- ・広告付きレシートロール、クラウドファンディング型ふるさと納税の活用など、歳入の確保に努めます。

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	Ⅲ	人権を尊重し合う教育の推進	担当課名	総合評価
	基本目標	5	人権教育の推進	指導課 教育支援室	B
	施策	5-1	学校人権教育の推進		

児童生徒一人ひとりの発達段階に応じた人権を大切にしようとする教育を推進し、人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童生徒の育成を目指します。

また、インターネットによる人権侵害や性の多様性などの新たな人権問題にも対応できるよう、管理職対象の研修会を始め、教職員の人権教育研修の充実を図ります。人権感覚を磨く授業づくりを推進するとともに、実感を伴うような研修会などを通して教員の指導力の向上を図ります。

さらに、子どもの人権擁護の視点に立ち、基本的人権を尊重する意識の醸成・定着・高揚に努めます。

活動内容実績	<p>【学校人権教育の推進】(指導課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚育成プログラムの活用について様々な場面で紹介するとともに、年間指導計画に位置付けるよう指導しました。 ・新採用教員研修、3年次教員研修、5年経験者研修、キャリア・アップ研修、臨時的任用教員・任期付教員研修、管理職対象人権教育研修会において、人権意識の高揚を図るための研修会を実施しました。また、草加市教育研究会人権教育部主催の授業研究会や連絡協議会への支援を行いました。 ・自他を大切にすることを育むため、人権作文・人権標語に全校で取り組み、草加市人権文集「なかま」を発行しました。また、人権標語の代表作品を短冊にし、全小中学校及び公共施設に掲示しました。 ・研修会等へ指導主事が出席し、同和教育に関する情報収集に努めました。 <p>【児童虐待から子どもを守る取組の推進】(教育支援室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護児童対策地域協議会に参加し、複雑な家庭環境に置かれた児童生徒について子ども家庭課等の関係各課及び児童相談所等の関係機関と情報共有を行いました。 ・ヤングケアラーが疑われる児童生徒に対して教職員が適切に対応できるように研修会を実施しました。 ・指導主事や学校支援指導員による学校訪問等を通じて、子ども家庭課等の関係各課からの情報を学校に提供するとともに児童虐待に対応するための組織づくりを促進しました。 ・スクールソーシャルワーカーが学校や子ども家庭課等の関係各課と連携し、不登校児童生徒への家庭訪問やケース会議への参加、児童生徒支援を実施しました。
--------	---

令和5年度点検評価委員の意見等

・中学校で実施したヤングケアラーサポートクラスがきっかけで、関係機関の家庭支援につながった事例などからもわかるとおり、子どもたちにヤングケアラーがどういうものか知ってもらうこと、意識してもらうことが重要で、それによってその先の気づきや支援へとつながっていく。困ったときに頼れる場所、相談できる場所があるということを知ってもらうためにも非常によいプログラムであると思われるため、ヤングケアラーサポートクラスの継続や学校数の拡大なども検討しながら取り組んでもらいたい。

・各学校の人権教室に講師として人権擁護委員等外部指導者を招くことも良いと思う。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	1,971,016	1,517,674	1,926,000
		一般財源	1,971,016	1,517,674	1,926,000
		特定財源	0	0	0
個別 事業 名	学校人権教育推進事業	1,971,016	1,517,674	1,926,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	自他を尊重する人権意識の高揚を図ることで、人の気持ちのわかる児童生徒に育てます。				
	指標名		① 94.1%	① 97%	
	草加市学力・学習状況調査の質問紙調査における「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」という質問に「当てはまる」又は「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合 ①小学校 ②中学校		② 96.5%	② 97%	
	所属評価・達成状況				
小中学校とも目標値には達しませんでした。引き続き「特別の教科 道徳」の授業を核に、学校の教育活動全体を通じて、自分・友だちを大切に人権意識の高揚を図り、人権教育を推進します。					
成果 評価	○と課題 △	【学校人権教育の推進】〔評価B〕 ○各種研修会を開催し、教職員の人権意識の高揚を図るとともに、児童生徒の人権意識を高めるための指導について研修することができました。 ○全小中学校において人権作文、人権標語の作成に取むことを通して、児童生徒の人権意識の高揚につなげました。 ○「特別の教科 道徳」の授業を始め、全教育活動を通じて道徳的実践力の育成に取り組み、人権意識を高めることができました。 ○計画的な人権教育研修を行うため、令和5年度より5年経験者研修においてLGBTQに関する人権教育について講師を招いての研修を実施するようにしました。 △人権教育研修会を引き続き開催し、教職員の人権意識の高揚を図るとともに、児童生徒への人権教育の充実を図る必要があります。 △人権教育研修会や「人権を考える市民のつどい」においては、引き続き、様々な人権課題について当事者や関係者からの話が聴けるよう講師の選定及び広く市民の参加を求めることについて工夫する必要があります。 △同和問題については、担当学年や教科担当だけでなく、すべての教員が正しい歴史認識をもって同和学習の指導に当たれるよう、校内研修の充実について指導する必要があります。			
		【児童虐待から子どもを守る取組の推進】〔評価B〕 ○要保護児童対策地域協議会から知り得た情報をもとに、学校とスクールソーシャルワーカーが各家庭の実情に応じた支援の充実を図りました。 ○スクールソーシャルワーカーが関係機関と連携し家庭訪問を行うことで、虐待が疑われる児童生徒の家庭環境の改善が図れるように努めました。 ○必要に応じてケース会議を開き、組織的な支援体制の構築に努めました。 △児童生徒の身近な存在である教員一人ひとりが虐待について正しく理解し、早期発見、早期対応できるように研修を充実させる必要があります。 △個々のケースに応じて各機関のもつ専門性を活かした支援が図れるように、今後もこども家庭課等の関係各課及び児童相談所等の関係諸機関と協議を重ねていく必要があります。			
令和6年度以降の取組	【学校人権教育の推進】 ・様々な研修等で人権に関するテーマを取り上げ、外部講師を招聘した研修会や現地研修会等を実施し、人権に関する研修の充実に取り組みます。 ・同和問題をはじめとする、様々な人権課題に対して、校内研修会が充実するよう指導・助言します。 ・人権を正しく学ぶため、各校が人権教育全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画に人権教育を位置付け、授業に取り組めるよう指導・助言します。 ・人権感覚育成プログラム第2集の内容を取り入れた学習活動や、身近にある様々な人権問題を通じた体験的な学習の充実を図り、児童生徒の人権感覚や人権意識を養います。 ・「自分のよさを大切にします」「友達を認め大切にします」を重点とした新しい「草加っ子の基礎・基本」の周知を通して、自他を大切にしようとする心情を育むことができるよう指導・助言します。 ・児童生徒が作成した人権に関する作文や標語を取めた人権文集「なかま」を発行し、人権・同和問題への取組を積極的に支援します。 ・「人権を考える市民のつどい」に加え「南部地区人権教育実践報告会」を開催し、学校関係者及び市民に対し、講演や情報提供を通して人権意識の高揚に取り組みます。 【児童虐待から子どもを守る取組の推進】 ・要保護児童対策地域協議会を柱とし、定期的にもこども家庭課等の関係各課及び児童相談所等の関係諸機関との情報共有に努め、虐待の早期発見につながるサインを見逃さないようにします。 ・スクールソーシャルワーカーを中心に、児童生徒を取り巻く環境を把握し、より専門性の高い福祉部等の関係機関に的確につなぐことができるように、校内ケース会議の開催や教員への助言など、校内支援体制整備の支援を行います。				

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興 基本計画	基本構成	Ⅲ	人権を尊重し合う教育の推進	担当課名	総合評価
	基本目標	5	人権教育の推進	生涯学習課	B
	施策	5-2	社会人権教育の推進		

市民が自ら考え行動できるよう、吉町集会所や公民館・文化センターにおいて、様々な啓発活動を実施し、更に学習機会を設けることで、全ての人が相互に存在を認め合い、尊重し合う平和な社会の実現を目指します。

活動内容実績	<p>【社会人権教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉町集会所運営委員会及び利用者会議を開催しました。 ・吉町集会所において女性教室を通年で開催しました。また、子ども教室を2回開催しました。 ・公民館・文化センターにおいて、人権教育講座や講演会等を行い、多様な人権問題を考える学習の場を提供いたしました。 ・吉町集会所において、非常用照明等修繕を実施し、利用者が安心して快適に利用できるように取り組みました。 ・部落解放北足立郡協議会や部落解放同盟埼玉県連合会等との各種の行政交渉や研修会等について、北足立郡市町同和対策推進協議会と連絡調整を図りながら対応しました。 ・吉町集会所まつりを実施しました。人権講演会、利用者団体の展示・発表、高砂小学校金管バンド及び瀬崎中学校吹奏楽部の演奏等を実施しました。
	<p>令和5年度点検評価委員の意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども教室において、人権DVDの視聴だけでなく、クラフト工作、草加せんべいの手焼き体験など子どもが楽しんで学べる取組は、子どもに興味関心を持ってもらう意味でも効果的であると考えます。 ・社会人権教育は、幼保小中を一貫とした草加の教育を推進していく上で、幼稚園・保育園の段階から育んでいくべきである。 ・吉町集会所まつりにおいて実施した、小学校の金管バンドや中学校の吹奏楽部と連携した社会人権教育の取組は、地域の人たちと交流しながら社会人権教育を推進できたと考えられるため、引き続き地域と一体となって人権教育を取り組んでもらいたい。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	1,777,799	1,779,374	2,525,000
		一般財源	1,777,749	1,779,344	2,524,000
		特定財源	50	30	1,000
個別 事務 事業 名	社会人権教育推進事業	1,777,799	1,779,374	2,525,000	
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)	目標値(令和5年度)	
	より多くの市民が様々な社会人権問題を解決できるように吉町集会所や公民館において、各種研修や講座を開催します。		1,539人	3,400人	
	指標名				
	社会教育における人権教育事業参加者数				
	所属評価・達成状況				
吉町集会所まつりを開催したことで、令和4年度と比較して参加者数の増加を図ることができました。					
成果 評価	【社会人権教育の推進】〔評価B〕 ○吉町集会所における事業計画や利用方針等を定めるために、運営委員会及び利用者会議を開催することで円滑に運営するとともに、地域の方々が人権問題について学ぶことができるよう、利用者会議において人権DVD視聴会を行いました。 ○子ども教室においては、第1回にて皮革クラフト工作、人権DVD視聴等を、第2回にて草加せんべいの手焼き体験、草加せんべいの歴史講話、人権DVD視聴等を地域の方々の協力を得る中で実施することで、小学生及び未就学児の同集会所の利用拡大を図り、併せて参加者同士の交流を深める中で、人権学習の推進を図ることができました。 ○吉町集会所まつりでは、人権講演会、利用者団体の展示・発表、高砂小学校金管バンド及び瀬崎中学校吹奏楽部の演奏等を通して地域の方同士の交流と人権学習の推進を図ることができました。 ○公民館・文化センター人権講座において、様々なジャンルの人権問題を取り上げ、市民の人権問題に対する理解と周知を図りました。 ○北足立郡市町同和対策推進協議会を通じて、行政間で調整を図りながら、人権団体との各種交渉等について適正に進めることができました。 △多様化している人権問題について、講座や研修等で継続的に課題として取り上げ、引き続き、理解促進を図る必要があります。				
	【社会人権教育の推進】 ・吉町集会所について利用促進を図るとともに、計画的な修繕等を実施し、利用者が安全・安心して利用できるように施設の維持管理を行います。 ・多様化する人権問題について、吉町集会所、公民館・文化センターを中心とした人権講座、講演会等において市民の学ぶ機会を提供します。 ・北足立郡市町同和対策推進協議会に加入している行政間で連携を図りながら、人権団体との交渉に対応をしていきます。				
令和6年度以降の取組					

令和5年度点検及び評価表

第三次教育振興基本計画	基本構成	—	施策体系外事業	担当課名	総合評価
	基本目標	—	施策体系外事業	総務企画課	A
	施策	—	施策体系外事業		

定例の教育委員会と必要に応じ開催される臨時会により、教育行政の方針その他所掌事項の事務処理をするとともに、研究会等を行い教育行政の更なる活性化を図ります。
職員人事関係、草加市教職員等の表彰、総務企画課事務管理運営、職員研修、各種協議会負担金等及び旅費、会計年度任用職員健康管理、「草加の教育」「教育だより」発行及び会計年度任用職員に係る経費を執行することにより、事務局及び学校給食等の円滑な運営を図ります。

活動内容実績	<p>【教育委員会運営事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育委員会定例会12回、臨時会2回(8月8日、2月16日)を開催しました。 <p>【総務企画課管理運営事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第三次草加市教育振興基本計画に基づく進行管理を適正に行いました。(4月24日、10月30日、31日) 令和4年度の点検評価を実施し、報告書を9月市議会に報告し、ホームページ等により公表を行いました。 教育長の秘書業務の事務手続きの方法を変更し、各課で随時共有できるように利便性を高めました。教育委員会名義使用の適切な事務処理を行いました。 教育委員会正規職員に係る人事異動、会計年度任用職員の任用・配置等を含む労務管理を行いました。 「そうか教育だより」(広報そうか5月20日号折り込み)、「草加の教育」(11月)を発行しました。 安全衛生委員会を2回(8月3日、1月11日)を実施しました。職場巡視を行うことができました。
	<p>令和5年度点検評価委員の意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> 草加の給食はおいしく、度々取材等を受けることもあり、草加の教育の特色である。 安全安心な草加の給食を自校で運営していくに当たって、フリーの調理士は有用であり、学校も調理士も安心して給食を運営できる。 教員の働き方改革、欠員補充などは、教員の負担を軽減するために必要な取組であるため、引退した教員等の任用も含めて推進してほしい。 学校教員の働き方改革だけでなく、教育委員会の職員の働き方改革についても必要に応じて、工夫しながら取り組んでほしい。

事務事業費 (財源内訳・単位円)		年度	4年度 (決算額)	5年度 (決算額)	6年度 (予算額)
		総額(円)	518,513,431	548,114,209	711,919,000
		一般財源	518,513,431	548,114,209	711,919,000
		特定財源	0	0	0
個別 事務 事業 名	教育委員会運営事業		4,721,128	4,708,191	4,867,000
	総務企画課管理運営事業		513,792,303	543,406,018	707,052,000
成果 指標	成果目標		実績値(令和5年度)		目標値(令和5年度)
	広報活動を充実させることで、より開かれた教育行政を目指します。		958回		700回 (400回)
	指標名				※()は当初目標値
	教育委員会ホームページの更新回数				
	所属評価・達成状況				
				各所属にて、速やかに情報発信を行う意識が浸透してきたと思われ、必要な時期に必要なに応じた更新を行うことができました。	
成果 ○と 課題 △ 評価	【教育委員会運営事業】〔評価A〕 ○教育委員会定例会等を円滑に運営しました。 ○総合政策課と連携を図る中、総合教育会議を開催することで、市長と教育委員会とで、教育施策の方向性を共有することができました。 ○第四次草加市教育振興基本計画を策定することができました。				
	【総務企画課管理運営事業】〔評価B〕 ○第三次草加市教育振興基本計画に基づく進行管理を行うとともに、点検評価を実施し、各施策の成果と課題を共有することができました。 ○会計年度任用職員の年度途中退職や育児休業に伴う欠員等補充と適正な配置及びフリー調理士の柔軟な活用(派遣445日)を行い、安定した学校給食の提供をすることができました。 △会計年度任用職員の欠員補充と新規採用時の人材確保の安定化を図る必要があります。 △安全衛生委員会は、会議の議題や適切な開催回数を産業医等と検討する必要があります。 △持続可能な学校給食の提供体制を維持するため、調理士の定数管理を適正に行う必要があります。				
令和 6年 度 以 降 の 取 組	【教育委員会運営事業】 ・教育委員会定例会等を円滑に運営します。 ・総合教育会議の開催について打診があった際には、総合政策課と連携を図りながら協議・調整を円滑に行います。				
	【総務企画課管理運営事業】 ・第四次草加市教育振興基本計画の基本理念の実現に向け、適切な進行管理を行います。 ・会計年度任用職員に係る給料計算ほか、人事全般に係る事務を適正に行います。 ・持続可能な給食の調理体制を整えるため、将来を見据えた調理士の定数管理を行います。				

資 料

○草加市教育委員会事務点検及び評価実施要綱

平成20年10月10日

教委告示第20号

改正 平成27年3月25日教委告示第6号

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、草加市教育委員会（以下「委員会」という。）がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について行う点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(平27教委告示6・一部改正)

(点検及び評価の対象)

第2条 点検及び評価の対象は、委員会の権限に属する前年度実施した事務とする。

(点検及び評価の実施)

第3条 前条に規定する事務について、所管する課及び室等が点検及び評価表を作成する。

2 点検及び評価の方法及び結果について、客観性及び透明性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者（以下「点検評価委員」という。）から意見を聴取する。

3 点検及び評価に関し必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を求めることができる。

4 点検及び評価が終了したときは、速やかに当該結果を委員会に諮るものとする。

(点検評価委員)

第4条 点検評価委員は3人とし、委員会が委嘱する。

2 任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、点検評価委員が欠けた場合は、前任者の残任期間において、新たな点検評価委員を委嘱するものとする。

(市議会への報告等)

第5条 点検及び評価の結果は、毎年市議会9月定例会に報告し、かつ公表するものとする。

(点検及び評価結果の反映)

第6条 委員会は、点検及び評価の結果を踏まえて、事業への取組、予算編成等を行

うものとする。

(庶務)

第7条 点検及び評価に関する庶務は、教育総務部総務企画課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 第5条の規定にかかわらず、平成20年度における市議会への報告は、12月定例会とする。

附 則 (平成27年教委告示第6号)

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

草加市教育委員会

〒340-8550 草加市高砂一丁目1番1号

電話：048-922-2497（総務企画課）

FAX：048-928-1178